

指導の手引き



「わたしたちのまち仙台」活用にあたって

- 学習指導要領に準拠して作成してあります。
- 仙台市の社会的事象や歴史的事象を学習する上で、基本的な事項を網羅しています。
- 問題解決的な学習が展開できるように単元を構成しました。
- 調べ活動の資料としても活用できるようにしました。
- 選択単位には、A・Bなどのアルファベットが付いています。学校の実態に応じて選択し、学習を進めてください。
- 東日本大震災に関連した内容も取り上げています。
(「仙台市防災教育副読本」も活用願います。)

「指導の手引き」活用にあたって

- 指導にあたって配慮する点、写真の説明、取材先の情報など、活用する際の参考になるよう編集しています。
- 各単元のはじめに、「つかむ」→「調べる」→「まとめる」の学習の流れを示した、単元デザインの手引きを作成しました。授業構想を立てる際にご活用ください。
- 学校の実態を考慮して、児童の主体的な学習が展開できるように創意・工夫して御使用ください。
- 「わたしたちのまち仙台」掲載の QR コードを読み取ると、QR コード下部に記載された画像・動画等を見ることができます。

目 次

1 わたしたちのまち みんなのまち

- ① 学校のまわり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ② 仙台市の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ◎ 地図帳を開こう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- ◎ くわたしたちの仙台市には、どんな「作る仕事」があるのだろう>・・ 11

2 はたらく人とわたしたちの暮らし

- ① 選択A わたしたちの暮らしと農家の仕事・・・・・・・・ 12
- 選択B わたしたちの暮らしと工場の仕事・・・・・・・・ 14
- ② 店ではたらく人・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

3 くらしを守る

- ① 火事からくらしを守る・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- ② 事故や事件からくらしを守る・・・・・・・・・・・・ 23

4 市のうつりかわり

- ① 市の様子と人々の暮らしのうつりかわり・・・・・ 25

5 すみよいくらしをつくる

- ① 選択A くらしをささえる水・・・・・・・・・・・・ 29
- 選択B くらしをささえる都市ガス・・・・・・・・・・ 32
- 選択C くらしをささえる電気・・・・・・・・・・・・ 34
- ② 選択A ごみとすみよいくらし・・・・・・・・・・・・ 36
- 選択B 使われた水のゆくえ・・・・・・・・・・・・ 39

6 自然災害からくらしを守る

- ① 市内で今までに起きた自然災害・・・・・・・・・・・・ 41
- ② 地震からくらしを守る・・・・・・・・・・・・・・ 42

資料編

- ① 仙台市内にあるいろいろな施設・・・・・・・・・・・・ 44
- ② わたしたちの生活と工業生産・・・・・・・・・・・・ 44
- ③ 仙台から情報発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- ④ 情報を生かす産業～運輸業～・・・・・・・・・・・・ 45
- ⑤ わたしたちの生活と政治・・・・・・・・・・・・・・ 46
- ⑥ 地域に残る遺跡や文化財・・・・・・・・・・・・・・ 46
- ⑦ 仙台市名誉市民・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
- ⑧ 国際姉妹・友好都市・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

単元デザイン例の見方

小单元名 p. ～	※小单元名が記載されています。	小单元 の目標	※小单元の学習内容を踏まえ、まとめの学習後に児童が到達している目標が示されています。
--------------	-----------------	------------	--

p.
児童が学習内容に関心を持ち、学習問題を追究したくなるような導入部分。
下の吹き出しのような言葉が児童から出るように、実態に合わせて工夫を！

つかむ

※児童の気づきや疑問
【児童の言葉で記述】

※児童の気づきや疑問
【児童の言葉で記述】

学習問題

※単元を通して追究し、解決に向かうための学習問題を立てる。

調べる

p.
○
※学習問題を解決するための体験や調査、△○を調べよう等で記述しています。

p.
○
※体験や調査を振り返り、まとめる活動。△○をまとめよう等で記述しています。

※調べる活動の際の留意事項
例 調べる観点、準備物、約束、インタビューのしかた、資料等

※まとめる活動の留意事項
例 まとめる観点、まとめ方の例等

まとめる

p.
○
※体験や調査をもとに、学習問題を解決するためのまとめの活動。

△○を～まとめよう等で記述しています。

※まとめる活動の留意事項

※まとめ方（学習のゴールイメージ）
や児童の主体的な活動を促す手だて等も記載しています。

教科書の活用

※教科書と副読本を併用する際のポイントを記述しています。

小単元名 p. 2～7	①学校のまわり	小単元の 目標	学校のまわりの様子について、地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目させる。観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで学校のまわりの様子を捉える。場所による違いを考え、表現することを通して、身近な地域の様子を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。
----------------	---------	------------	--

つかむ

p. 2

◎学校の東西南北の様子

- ・2年生のまちたんけんのときに撮影した学校のまわりの写真を提示し、どんな様子の場所だったかを想起させる。

もっと詳しく知りたいな。
わたしも行ってみたいな！

他にもないかな？
みんなでさがしたいな！

学習問題

学校のまわりの様子は、どのようになっているのでしょうか。

調べる

p. 2～3

◎学校のまわりの絵地図

- ・絵地図を見て、学校のまわりの様子について話し合う。
- ・方位磁針の使い方と地図の方位について理解する。

p. 3～5

◎くわしい地図を見てみると

◎交通の様子に注目

- ・学校の近くの様子を表した地図を提示し、児童にとって身近な施設などに着目させる。

〈着目させる施設の例〉

- ・幼稚園や郵便局など訪れた場所
- ・道路の様子（幅、交通量など）
- ・家の多いところ、店が多いところなど

まとめる

p. 5～7

◎公共しせつやたて物の様子に注目

- ・道路やバス停に着目させ、交通量やバスの行き先に関心を持たせることで、交通の様子について着目させる。（学区によっては駅も含める。）
- ・公共施設については、初めて学習することになる。先生の吹き出しや教科書の「ことば」を活用して丁寧に指導する。

◎学校のまわりを空から見ると

- ・高いところからみた様子と絵地図の様子とを比べて、方位ごとの様子について発表させる。
- ・さらに遠いところの様子を考えさせることにより、次小単元「仙台市のようす」の学習につなげるようにする。

教科書の活用

- 教科書、副読本の両方の事例地を取り上げることで自分たちのまちとの類似点、相違点を見付けることができる。他地域の地図に触れることで、地図の見方、方位や地図記号などの理解を深めることができる。

p. 2、3	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	① 学校のまわり
【小単元の指導に当たって】 本小単元のねらいは、学校のまわりの様子を調べ、必要な情報を集め、場所による違いを考え、身近な地域の様子を理解することである。学区の様子を表した地図を用意し、地図から読み取れる情報を中心に学習を進めるなどの工夫が必要である。				
本文「学校のまわりの様子」 単元への導入では、生活科の学習を振り返り、学校のまわりにある場所を写真などで提示し、本単元への関心を高める。 写真 「まちたんけんで見つけた場所」 児童に紹介したい場所を聞き取っておき、教師が事前に写真を撮影しておく。写真を基に「ここはどこだろう?」と、クイズ形式で提示することも考えられる。 本文「学校のまわりの絵地図」 教師が作成した地図を提示し、学校のまわりの様子に関心を向けさせる。 先生の吹き出し 地域ごとの特徴に気が付かせるための発問の例。学区の実情に合わせて工夫する。 「方位磁針」 四方位について確認する。イラストのように実際に体を使って体感させるとよい。				

p. 4、5	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	① 学校のまわり
本文「くわしい地図を見てみると」 分かりやすい地図にするためには、どのような工夫をすればよいのか、話し合いながら作業を進めさせるとよい。 図「地図記号」 ここでは、地図記号の利便性をつかませたい。 地域の実態によっては、学区の地図に使用しない地図記号もあるが、成り立ちなどを示すことで、いろいろな地図記号に対しても関心を持たせたい。 本文「道路のはばや道路のまわりの様子、橋などはどうなっているでしょうか」 交通の様子に注目させ、分かったことを記述させる。 学区の実態に応じて、道路の幅や交通（バスや電車など）、橋の様子に着目させるとよい。 本文「縮尺」 これを基に計算すると、実際の距離が求められることを押さえる。				

p. 6、7	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	① 学校のまわり
本文「公共しせつやたて物の様子に注目」 学区内にある身近な施設に着目させる。児童センターや公園など、生活と関わりのあるものを取り上げる。 * 屋上などの高い所に持って行く物は、地図や方位磁針など最小限にする。 * 安全面に十分配慮する。 ※ 学習指導要領の趣旨を理解し、時数に留意して指導する必要がある。				
		本文「学校のまわりを上から見てみると」 学校の屋上で四方位を概観させ、地図と景色を見比べながら紹介し合う活動を通して、まちの様子の違いを見つける視点に気付かせる。 屋上に上がることができない場合は、近くの高い場所からの概観に変えよう。この活動ができない場合は、地図アプリや、スライドや写真を用意して学習を進めるなどの工夫をしたい。 次小単元への意欲付け 方位を確かめながら、学校のさらに向こうはどうなっているのか興味を持たせ、次小単元の「仙台市の様子」につなげていくようにする。		

小単元名 p. 8～17	②仙台市の様子	小単元 の目標	仙台市の様子について、都道府県における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所などの主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査したり地図などの資料で調べ、まとめたりすることで市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することを通して、自分たちの市の様子を大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
-----------------	---------	------------	--

つかむ

p. 8～9

◎仙台のまちを空から見てみよう

- ・ 仙台駅を中心に東の方を撮影している写真なので、地図の方位とは異なっていることを押さえる。
- ・ 航空写真を見て、行ったことのある場所や知っている場所について話し合う。また、気付いたことを交流させながら、仙台市の様子を大まかに捉えさせる。

仙台の中心には高いビルや
大きい道路があるね。

写真に写っていない所は
どんな様子なのかな？

学習問題

わたしたちが住んでいる仙台市はどのような様子なのでしょう。

調べる

p. 10～11

◎ 市の様子を写真や地図で見よう

- ・ 市の東西南北の空から撮影した写真
 - ・ 主な川、鉄道、道路
 - ・ 八方位での表し方
 - ・ インターネットを使って調べる方法
- グループに分かれて、土地の様子や使われ方について調べる。その際、巻末資料の地図を活用するとよい。

p. 12～15

◎ 市の土地のしくみについて考えよう
◎ 市の公共施設や古くからのこるたて物をさがそう

- ・ 各グループの発表から、なぜ土地の使われ方が場所によって違うのか考える。
- ※ 「仙台市の地形」「交通の広がり」「公共施設の場所と広がり」「古くから残る建造物」に着目して考えさせ、仙台市の様子をおおまかに理解できるようにする。

まとめる

p. 16～17

◎ 仙台市のガイドマップを作ろう

- ・ 調べたこと、友達の発表から分かったことを整理して紹介したい内容を選ぶ。
- ・ 仙台市の白地図を色分けさせ、仙台市の特色を捉える。
- ・ これまでの学習をもとに、紹介することを文章で表現する。
- ・ 写真やイラストを入れるなど各自の工夫を取り入れる。
- ・ 仙台市の特色を一言で表すキャッチコピーをつける。
- ・ 友達と作品の交流を通して、
『仙台市のことをもっと詳しく調べたい。』という意欲を持たせ、次の単元につなげる。

学級の実態に合わせて、個人、グループで作成させる。

教科書の活用

○ 教科書には「学習の進め方」が載っている。この単元だけでなく、今後の学習の進め方に生かしたい。各ページには、調べる観点が載っているので、参考にするとうい。

P8、9	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	② 仙台市の様子
【小単元の指導に当たって】 本小単元のねらいは、学区の学習を基に、仙台市全体の様子に関心を持たせ、生活経験や見学活動などを通して、市全体の様子を捉えさせることである。仙台市の特色ある地形、土地利用、主な公共施設などの場所や働き、交通の様子などを調べ、場所によってそれぞれの特色に違いがあることを考えさせる。				
キャラクターの吹き出し 航空写真を見て、行ったことのある場所や知っている場所について話し合う。また、気付いたことや不思議に思ったことなどについて話し合うことを通して、仙台市の学習に対する興味・関心を高めたい。 ※学習対象が、学区から仙台市全体に広がったことをしっかりと意識付ける。  写真「航空写真」 仙台駅を中心に、東の方向を撮影している。地図の方位とは異なるので、説明が必要となる。 仙台市の中心市街地にある JR 仙台駅や仙台市役所、宮城県庁の位置などを確認させたい。 また、青葉通や広瀬通、定禅寺通なども見付けさせたい。 ※航空写真は、次ページ以降の学習における、白地図・地形図・土地利用図などと見比べる活動の際にも活用したい。 区名 区の名前を記入させ、自分が住んでいる区に色を塗らせる。自分たちの学校の大まかな位置も記入させ、仙台市の中のどこに位置するのかを確認させたい。				

p. 10、11	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	② 仙台市の様子
本文「市の様子を写真や地図で見よう」 仙台市の東西南北の上空から撮影した写真であることを説明する。白地図で位置を確認しながら写真と見比べ、仙台市の土地の様子について調べる課題を持たせたい。 資料編の地図「仙台市の様子」や「仙台市の土地と交通の様子」などを見比べさせ、課題意識を高めたい。 ※仙台市の土地利用の様子について、問いを見いだすための資料である。主な川、鉄道、道路の位置と写真、吹き出しを関連付けて考えさせたい。  学び方コーナー「じっさいに、たんけんができないときは？」 直接見学することは難しい場合、インターネットや地図アプリを使用して、仙台市の様子を調べさせる。航空写真や地図、地形などを切り替えることができるため、児童に操作方法を指導する必要がある。 学び方コーナー「八方位」 八方位を用い地図上の特定の地点を説明させることを通して、八方位の必要性や便利さに気付かせたい。 写真・キャラクターの吹き出し 仙台市の東西南北の土地の様子を表している。吹き出しと地図を見比べながら、特徴を捉えさせたい。				

p. 12、13	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	② 仙台市の様子
※前ページの地図や写真と合わせて学習するとよい。 ※土地の高さを色で表し、地図記号も掲載しているので、地図記号の学習にも活用できる。 先生の吹き出し 仙台市の土地の高さと土地利用の様子を関連付けて考えさせる。地図記号や川、鉄道、道路の様子にも注目させたい。 ※児童の実態に応じて、あらかじめ主な道路や川などをかいた白地図を配布して作業を進めることも考えられる。 写真 児童が撮影したり、インターネットで集めたりした画像を使用して仙台市の様子について指導するのもよい。 白地図の使用（QRコード） 白地図に土地利用の様子を色分けしたり、調べたことを文で表現したりするなどして学習したことをまとめる。 地図記号 他にもいろいろな記号があることについて、地図と照らし合わせながら調べることで地図記号に慣れさせる。				

p. 14、15	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	② 仙台市の様子
児童の吹き出し 自分の住む地域、及び仙台市にどのような公共施設があるか、それぞれの働きについて考えさせたい。 写真 公共施設とはどのような役割を持つのかを理解させながら、仙台市にある主な公共施設の種類や働きについて調べる。その際、多くの公共施設は市役所によって運営していることに触れる。 本文 資料編（p. 92・93）には、学習に活用できる公共施設を紹介している。家族で出かけたり、校外学習で利用したりしたことがある児童も多いと思われる。それらの経験から、公共施設の大切さについて考えさせたい。 古い建物 自分の住む地域にどのような古い建造物（神社、寺院、伝統的な家屋など）や伝統的なまち並みがあるか調べる。可能ならば、地域の方々に直接話を聞き、建造物のいわれなどを調べられるとよい。 地図・写真 仙台市に残る主な古い建物を紹介している。地図上で位置を確認したり、インターネットやパンフレットを用いて歴史などを調べたりして、身近な地域や市の様子について捉えさせたい。				

P. 16,17	大単元名	1 わたしたちのまち みんなのまち	小単元名	② 仙台市の様子
本文「仙台市のガイドマップを作ろう」 調べて分かったことや気付いたことなどを整理し、仙台市のガイドマップを作る。これまで調べたことのほかに、新たに興味を持ったり疑問に思ったりしたことなどを調べてもよい。				
紹介する観点 これまで学習した交通・地形・土地の使い方・公共施設・歴史的建物から選択して紹介させる。これまでの学習もとに、自慢したいことを文章に表現する。		学び方コーナー 「仙台市ではないところに住んでいる人たちに伝えよう。」という働き掛けから、意欲付けを図りたい。自分が調べた地域だけでなく、友達が調べた地域も取り入れながら、仙台市全体を紹介させたい。		
キャッチコピー 仙台市の特色を一言で表すキャッチコピーを作る。交通、自然、歴史、産業など、ガイドマップで紹介している内容を組み合わせて考える。		写真 児童が撮影した写真を取り入れてもよい。そのほか、インターネットやパンフレットなどの写真を活用することも考えられる。		
			イラスト 写真を取り入れることが難しい場合など、簡単なイラストで表現してもよい。児童一人一人が、分かりやすく楽しいマップにすることができるよう、個に応じた工夫を引き出したい。	

小単元名 p. 18～21	地図帳を開こう	小単元 の目標	地図の基本的な見方・使い方について知り、地図帳を使って調べたり、地図記号や等高線の意味を理解したりすることができるようにする。
------------------	---------	------------	---

つかむ

p.18

◎ 1 地図から分かること 2 正しい方向を知るには

- ・ 作業的な活動を通して、基本的な地図の見方・使い方についての理解を深め、地図の有用性に気付く。
- ・ 左右と違い、東西南北の方位を使うと正しく方向を表せることを知り、教室の方位を確かめる。

地図っていろいろなことが分かって便利だね。

地図帳を使って、もっといろいろなことを調べたいな。

地図帳の見方・使い方を知り、使ってみよう。

調べる

p. 19

○ 3 地図の中で方位を表す主な記号

- ・ 方位磁針のイラストや、北のみを表すタイプがあることを知り、実際の地図でも確認する。

○ 4 地図記号をおぼえよう

- ・ 誰が見ても分かるように地図記号があることや、土地利用のされかたによって色分けされていることを知る。

p. 20

○ 5 地図記号クロスワードパズル

- ・ ヒントを頼りにたてのマスに入る言葉と横のマスに入る言葉を考え、地図記号の理解を深める。

○ 6 地図記号ビンゴで遊ぼう

- ・ 地図記号をビンゴの口に書いたり、地図記号を読んだりする活動を通して、地図記号の意味を理解する。

まとめる

p. 21

○ 等高線について学ぼう。

- ・ 等高線、断面図の色分けを行い、土地の高さや斜面の様子を表していることを理解する。

※ 地図帳に慣れ親しむ活動を継続的に行い、地図帳の使い方を理解する。

- 例)
- ・ 地名探し
 - ・ 都道府県を紹介するスピーチ
 - ・ 旅行などで行った場所を白地図に示す

※宮城県の位置について、周囲の県名や所属する地方名で具体的に表現できるようにする。また、場所については、白地図も活用する。

・「宮城県は、東北地方にあり、北は岩手県、秋田県、西は山形県、南は福島県に接しています。東は太平洋に面しています。」

教科書の活用

- 地図帳の使い方に慣れる活動を継続しながら、各小単元において、教科書や副読本に示されている地図に関する内容を取り上げて確認する。教科書には、地図記号の成り立ちが写真入りで掲載されているので、活用したい。

p. 18、19	大単元名	地図帳を開こう	小単元名	1 地図から分かること 2 正しい方向を知るには 3 地図の中で方位を表す主な記号 4 地図記号をおぼえよう
【小単元の指導に当たって】 本小単元では、基本的な地図の見方・使い方を学ぶ。地図を見て分かること、方位や地図記号について取り上げ、様々な学習場面で役立てることができるようにすることがねらいである。指導に当たっては、自分の教室や学校の周りなど身近な場所を想起させながら、地図の見方についての理解を深めたい。				
1 地図から分かること どこに何があるのか探せたとしても、位置関係や距離までは意識できていないこともある。地図から分かることは多いことに気づき、便利な物だということを実感させたい。 2 正しい方向を知るには 方位の有効性を知り、自分の教室の東西南北を確認する。 3 地図の中で方位を表す主な記号 方位を示す際に様々な表し方があることや、ほとんどの地図は北を上にして描かれていることを知る。 4 地図記号をおぼえよう 地図記号については、そのものの形や意味を考えさせながら楽しく学ばせたい。また、絵地図では伝わりにくいことも、地図記号を使うことで分かりやすくなることに気付かせたい。				

p. 20、21	大単元名	地図帳を開こう	小単元名	5 地図記号クロスワードパズルに挑戦しよう 6 地図記号ビンゴで遊ぼう 7 等高線について学ぼう
5 地図記号クロスワードパズルに挑戦しよう ヒントの記号を見て、マスの中に記号が表しているものを書く。マスを拡大し分かりやすく表示して楽しく行いたい。 6 地図記号ビンゴで遊ぼう ビンゴでは基本的な地図記号を扱っている。慣れてきたら、この表を複製し、他の地図記号にするなどして、何度か取り組ませてもよい。 7 等高線について学ぼう（作業1） 最初に、図Bに高さごとに色分けする。次に図Aを色分けすることで、地図を立体的にイメージできるようにする。 7 等高線について学ぼう（作業2） 図Bを基に傾斜が急な方はどちらかを確認する。 そこから等高線との間隔が広いほど傾斜が緩やかで、狭いほど傾斜が急であることを理解する。				

p. 22、23	大単元名	2 はたらく人とわたしたちの くらし	小単元名	わたしたちの仙台市にはどんな 「作る仕事」があるのだろう
【小単元の指導に当たって】 本小単元のねらいは、仙台市内で作られている工業製品や農作物が、主にどこで作られているのかを把握し、仙台市内で働く人の仕事の様子や仕事とわたしたちの生活とのつながりを考えることである。 ②A「わたしたちのくらしと工場の仕事」、②B「わたしたちのくらしと農家の仕事」の2小単元の導入となる学習である。				
<北部> 写真「泉パークタウン工業・流通団地」 絵と関連させながら、泉区近辺には、本や新聞、かまぼこなどを作る工場があることに着目させる。 <西部> 地図記号や絵と関連させて稲作や野菜作りが盛んであることに着目させる。 新川には、ウィスキー工場がある。 <東部> 写真「岩切地区の仙台曲がりねぎ畑」 地図記号や絵と関連させて、宮城野区の港近辺には、かまぼこやビールなどの工場が多いことに着目させる。港や道路との関連にも気付かせたい。 「曲がりねぎ」は、仙台白菜や仙台雪菜などと並ぶ、伝統野菜の一つ。 <東部・南部> 地図記号や農作物の絵と関連させて、農業が盛んであることに着目させる。				

小単元名 p. 24～27	① 選択A わたしたちのくらしと 農家の仕事	小単元 の目標	地域にみられる農家の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図でまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、農家の仕事は、人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
------------------	------------------------------	------------	---

つかむ

p. 24

◎ わたしたちくらしと農家の仕事

- ・学校給食等を活用して、地区で栽培されている農作物への関心を高める。
- ・「仙台曲がりねぎ」「仙台白菜」「仙台雪菜」「仙台なす」などの伝統野菜を紹介する。
※仙台あおば餃子（仙台雪菜を皮に練り込んだもの）などの料理も紹介するとより良い。
※令和5年度は11月を仙台地産地消月間とし、市内の農産物の消費の拡大をはかっていた。

他にどのような野菜が
作られているのかな？

おいしい野菜をつくるために、
どんな工夫をしているのかな？

学習問題

農家では、どのようにして、おいしい野菜をつくっているのでしょうか。

調べる

p. 25

◎ 農家を見学して調べてみよう

学校から近い農家を見学したり、農家の方を学校の畑に招いたりして、インタビューをする。

★農家の方にインタビューしたい内容など観点を作って事前に考えさせる

- (例) ①作り方の工夫について
②土づくりの工夫について
③収穫について
④農家の方の思いについて

p. 26、27

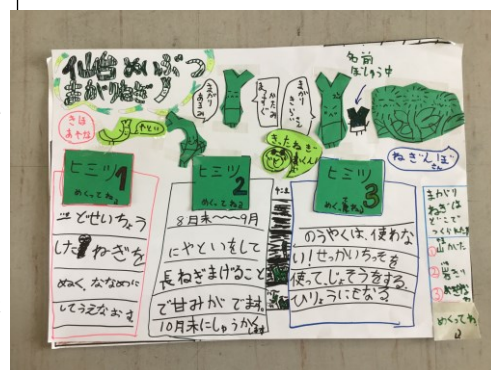
◎ 野菜作りの工夫を調べよう

- ・地区の生産物について調べる。
- ・曲がりねぎづくりカレンダーから、農家の方が一年を通して野菜作りに携わっていることや計画的に生産・出荷をしていることに気付かせ、時期毎の取組の工夫について捉えさせる。
- ・農家の方へのインタビューを通して、さらに調べたくなったことを挙げるなどして追究を深めていく。

まとめる

◎調べたことをまとめて発表しよう

- ・発表資料の作成にあたっては、農家の見学や調べ学習で分かったことを生かしたり、写真を使ったりするよう指導する。
- ・お世話になった農家の方にも見ていただくなど、相手意識を持たせ、作成に取り組ませたい。
- ・地元の野菜を使った新しい特産物を考えるなど、児童の工夫を生かして活動をさせても良い。



教科書の活用

- 教科書で取り上げている題材は異なるが、見学の視点や農家の工夫や努力についてなど、調べる視点、まとめ方については参考にするとよい。

p. 24、25	大単元名	2 はたらく人とわたしたちの暮らし	小単元名	①選択A わたしたちの暮らしと農家の仕事
----------	------	-------------------	------	----------------------

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解することである。学校から近い農家を見学する等、各小学校の地域の実態に応じて、その地区の生産物を調べるとよい。

写真「仙台伝統野菜」

仙台の気候や風土に適した野菜として古くから栽培されてきたもの。

他にも、仙台芭蕉菜、からとり芋などがあり、児童の関心を高めるために取り上げたい。

取り上げる際には、伝統野菜を生かした郷土料理なども同時に取り上げると、より身近に伝統野菜を感じさせることができる。

仙台産の野菜が使われている給食のメニューを話題にすることで児童の関心を高めたい。

曲がりねぎ自体のねぎの品種は多品種と大きく変わらない。岩切地区が発祥の伝統野菜だが、仙台市内様々な区の畑で生産がされている。



学習問題

作り方や土づくりの工夫など、次ページの観点とリンクさせて学習問題を設定するとよい。

本文「やとい」

岩切地区は、地下水位が高く、ねぎの栽培には不向きであった。しかし、このデメリットを逆手にとって生まれたのが「曲がりねぎ」である。

先人の知恵と努力や、地域の農家の工夫を取り上げたい。

p. 26、27	大単元名	2 はたらく人とわたしたちの暮らし	小単元名	①選択A わたしたちの暮らしと農家の仕事
----------	------	-------------------	------	----------------------

図「仙台曲がりねぎづくりカレンダー」

一年間を通して野菜作りに携わっていることに気付かせ、その時期毎に力を入れている作業や工夫について理由も合わせて考えさせるとよい。

秋ねぎと冬ねぎで生産の時期をずらしている理由にも注目させたい。

夏の天気がねぎの発育に影響するため、作業の時期がずれることもある。

本文「調べたことをまとめて発表しよう」

農家の方の仕事が自分たちの生活を支えていることを確認しながら、まとめる活動をさせたい。



本文「調べた曲がりねぎ作りの工夫について」

曲がりねぎ作りには様々な工夫があることに気付かせたり、教科書の野菜づくりを参照し共通点や相違点に気付かせたりして、野菜づくりの工夫について多面的に捉えられるようにしたい。

本文「農家の方の話」

ここでは販売の工夫や生産の苦労について話している。消費者のことを考えて野菜の生産を工夫していることを読み取らせる。

写真

学習のまとめを手紙にまとめさせる、1人1台端末を活用し、発表用スライドにまとめさせる、曲がりねぎカレンダーにまとめさせるなど、様々な学習のまとめが考えられる。

小単元名 p. 28～33	①選択B わたしたちのくらしと 工場の仕事	小単元 の目標	地域にみられる工場の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図でまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、工場の仕事は、人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
------------------	-----------------------------	------------	---

つかむ

p. 28

◎ ささかまぼこについて調べてみよう

- ・ 仙台の特産物であるささかまぼこの種類やお店などについて取り上げ、関心を高める。
- ・ グラフを活用して、宮城県・仙台市はささかまぼこの生産や消費が多いことを知る。

ささかまぼこは何から
作られているのだろう！

ささかまぼこを作っている
様子を見てみたいな！

学習問題

工場では、どのようにしておいしいささかまぼこをつくっているのでしょうか。

調べる

p. 30～31

◎ 原料について ◎ ささかまぼこができるまで ——かまぼこ工場
◎ 工場ではたらく人の様子 ◎ ささかまぼこのゆくえ

ワークシートなどを準備し、観点別に記入させてから見学するとよい。

* 観点の例

- | | |
|---------------------|-------------------|
| <原料の工夫について知りたいこと> | <歴史について知りたいこと> |
| <つくり方の工夫について知りたいこと> | <販売、輸送について知りたいこと> |
| <働く人の工夫について知りたいこと> | など |

* 工場見学ができない場合は、蒲鉾店のwebページを活用することも考えられる。

まとめる

p. 32～33

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

ささかまぼこについて、調べて分かったことをグループごとにまとめ、発表を聞き合っ
て意見を交流する。

<グループでテーマを決めて、調べたことをまとめよう>

- ・ ささかまぼこについて調べるテーマをグループで一つ決める。
 - ・ 児童一人一人がテーマに沿って調べ、絵や写真を交えながらカード等にまとめる。
 - ・ レイアウトなどを工夫しながら、グループごとにカードを模造紙等にまとめる。
 - ・ グループごとに発表し、意見を交流する。
- ※スライドなどを活用してまとめさせても良い。

◎ 自分の考えをまとめよう

これまでの学習や、グループの発表を聞いて分かったことをもとに、学習問題に対する
自分の考えをまとめる。

<学習問題について分かったや考えたことを、ノートに書いてみよう>

- ・ 原料やつくり方など、ノートにまとめてあることや、各グループの内容などを手掛かり
にして書かせる。

※「1年間に作られるかまぼこの量」は、平成23年の統計調査では宮城県は全国で1位の生産量だったが、震災の影響で平成24年の統計調査では7位に落ち込んだ。その後、原料となる魚の漁獲量の回復や、生産ラインの復旧などにより、令和元年は全国5位・令和2年は4位・令和4年は全国6位の生産量となっている。

p. 28、29	大単元名	2 はたらく人とわたしたちの暮らし	小単元名	①選択B わたしたちの暮らしと工場の仕事
----------	------	-------------------	------	----------------------

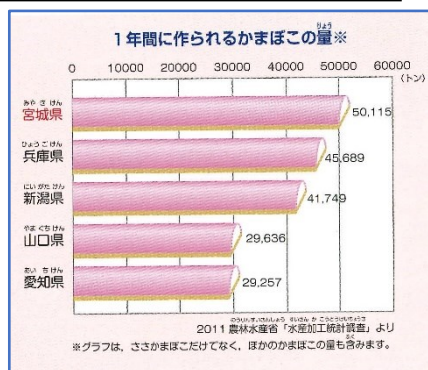
【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、生産の仕事が、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解することである。児童にとって身近な、かまぼこを生産する仕事を取り上げ、原料や作り方、製品の流通、他地域とのかかわりなどを調べ、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉えることができるようにする。

グラフ「1年間に作られるかまぼこの量」

生産量の多さを実感するためのグラフである。

仙台市の贈答品では、ささかまぼこが主力商品になっている。各家庭での消費より、おみやげなど贈答品としての利用が多いことを補足説明する。



写真「ささかまぼこ」

仙台の特産物であるささかまぼこを導入で取り上げ、興味・関心を高めたい。

* 情報コーナー

(株)阿部蒲鉾店 泉工場
022-378-4801
鐘崎笹かま館
022-238-7170

図「ささかまぼこについて調べてくること」

観点を明確にして、調べることを具体的に考えさせるとうい。

参考資料「1年間につくられるかまぼこの量」

(令和3年調査より)

東日本大震災により多くの蒲鉾工場が被災したため、2011年までは生産量第1位であった宮城県が、2019年は全国5位・2020年は4位・2022年は全国6位に下がっていることを補足する。その際、左のグラフを活用するとよい。

p. 30、31	大単元名	2 はたらく人とわたしたちの暮らし	小単元名	①選択B わたしたちの暮らしと工場の仕事
----------	------	-------------------	------	----------------------

本文「原料について」

すけとうだらは、北洋の船上ですりみに加工される。ひらめは養殖ひらめを使用し、コストを抑える企業努力をしている。このほかに、真鯛もオーストラリアから空輸されて使われる。

使われる魚は、原料費などによって変わることもある。

図「ささかまぼこができるまで」

手作業で行われる作業と機械で行われる作業があることに気付かせたい。

※すり身の状態で仕入れることが多く、身おろしは工場ほとんど行われていない。



※情報コーナー

阿部笹蒲鉾店

<http://www.abekama.co.jp>

本文・写真「工場で働く人の様子」

「一番気を付けていること」が衛生面なのはなぜか考えさせたい。

写真やイラストの工夫のほかに、温度や湿度の管理、消毒、換気、製品チェックなど様々な配慮がされている。

本文・写真・吹き出し

かまぼこを作るためには多くの工程があり、工場に働いている人だけでなく、様々な人々が関わっていることを捉える。

他の市や町から通勤している人々がいることにも触れる等、他市町との関わりに気付かせてもよい。

p. 32、33	大単元名	2 はたらく人とわたしたちの暮らし	小単元名	①選択B わたしたちの暮らしと工場の仕事
----------	------	-------------------	------	----------------------

写真「販売している場所」

どんなところで販売しているのか、写真を通して考えさせるとともに、立地条件についても話し合わせると良い。

（左から、仙台駅の店舗、国道沿いの店舗、仙台空港の店舗）

写真「個人で調べたことをまとめたカード」

グループで設定したテーマに沿って、児童一人一人が調べたことをカードにまとめさせる。

絵や写真などを交えながら、分かりやすくまとめさせたい。



写真「模造紙を使った発表」

模造紙を使ってグループごとに発表させ、気付いたことや感想を話し合わせる。

1人1台端末を活用したまとめも考えられる。

友達の考えと交流することで、多様な考えに気が付かせる。

写真「学習問題についてまとめたノート記述」

学習問題は授業の際、常に児童の目に触れる場所に掲示し、課題意識を持って学習に取り組ませるようにする。単元の終末として、これまでの学習や、グループの発表を聞いて分かったことをもとに、学習問題に対する自分の考えをまとめさせる。

1人1台端末を活用して、まとめた内容を交流させることも考えられる。

小単元名 p. 34～43	② 店ではたらく人	小単元 の目標	地域に見られる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図にまとめることで販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
------------------	-----------	------------	--

つかむ

p. 34～36

◎ 学校のまわりにある店 ◎ 家の人を利用する店

- 買い物について振り返り、紹介し合う。
 - ・ 日頃どんな店を利用しているか、紹介する。
 - コンビニエンスストア、スーパーマーケット、商店 など
 - ・ 学区内のどこにどんな店があるか地図上で確かめる。
- 買い物調べの結果をまとめ、気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。

調べを表やグラフにする
りやすいね！

買い物をする人はいろいろある店をど
のように使い分けているのだろう？

学習問題

スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まるのはなぜでしょう。

調べる

p. 37～39

◎ スーパーマーケットの見学

- ・ スーパーマーケットにたくさんのお客さんが集まる秘密を調べて、見学カードに記入する。
- (品揃え、並べ方、表示、便利さ)

◎ 店ではたらく人の仕事

- ・ 店員さんにインタビューする。
- (工夫、気を付けていること、願い)
- ・ お客さんにインタビューする。
- (買い物をするときの願い)

※見学カードやインタビューの仕方を確認する。

p. 40

◎ 品物はどこから

- ・ 商品がどこから運ばれてきているのか調べる。

p. 41

◎ お客さんの願い

- ・ お客さんの願いと、お店の工夫が繋がっていることを考える。

p. 42

◎ まちの人とともに

- ・ スーパーマーケットが行っている工夫を話し合い、工夫について考える。

まとめる

p. 43

◎ 調べたことをまとめて発表しよう

- ・ これまでの学習を踏まえて、店の人のくふうやお客さんの願いとスーパーマーケットの工夫とのつながりについてまとめる。
- (新聞、ICT活用)

教科書の活用

- 教科書、副読本の両方の事例を取り上げることで、自分たちの地域のいろいろな店との類似点、相違点を見付けることができる。
- 「まなび方コーナー」の「見学のしかた」「インタビューのしかた」などを活用し、「社会的事象等について調べまとめる技能」を習得する機会とする。

p. 34、35	大単元名	2 はたらく人とわたしたちの暮らし	小単元名	② 店ではたらく人
【小単元の指導に当たって】 本小単元のねらいは、販売の仕事と自分の生活との関わり、販売の仕事の特色と他地域との関わりなどを調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考え、表現することを通して理解することである。地域の人々の生活を理解する上で欠かせない視点の一つは、生産と消費である。児童にとって身近な消費活動の様子を取り上げながら学習を進めていきたい。				
本文・写真「買い物調べをしよう」 写真から普段の家庭での買い物を想起させ、興味・関心を高めたい。 また、事前に、家庭での「買い物調べ」や取材活動を行わせたい。 図「白地図」 まち探検で作成した地図上に店の場所を示し、学校との位置関係、住宅地や通りとの関係などにも着目させる。スーパーマーケットが1件とは限らず、最近通信販売を利用することも考えられ、地域によって違いが出ると思われる。それぞれ、その店を利用する理由を確認し、消費者の願いにつなげたい。 写真「商店等の写真」 まち探検の際に撮影した、それぞれの地域にある商店の写真を授業で提示するなど、身近な消費活動とのつながりを実感させながら学習を進めていく。 図「買い物調べ」 家族にインタビューする等して、最近1週間で買い物をした店を書き込む。また、その店に行く理由についても具体的に書かせるようにする。ここに書かれていることから、消費者の願いにつなげていく。 				

p. 36、37	大単元名	2 はたらく人とわたしたちの暮らし	小単元名	② 店ではたらく人
グラフ「買い物をする店調べ」 各自が調べてきたことを学級でまとめるとよい。地域の買い物の様子が分かる。 ●を使ってまとめることで、グラフを読み取る技能の育成にもつなげていきたい。 キャラクターの吹き出し 「お店の人はどんなことに気をつけているのかな」 見学を行う前に、「お客さんが集まるわけ」について「気を付けていること」「工夫していること」などの視点を与え、予想を立てる。見学に向けて、意欲付けを図る。 「買い物に行った店」について 地域によっては個人商店のような店舗がないこともあるので、地域の実態に合わせてグラフを作成する。最近は、インターネットで注文したり、自宅まで食材を配達してくれたりするサービスもあり、多様化していることも踏まえる。 「スーパーマーケットの見学」 見学の際には、商品の並べ方や配置の仕方に工夫があることに気付かせたい。あらかじめ見取り図などのワークシートを準備し、書き込ませるとよい。 				

写真「店ではたらく人の仕事」
ここでは、見学活動を積極的に取り入れたい。

見学に際し、前もって店に見学の観点を知らせ、見学内容、経路等を決めておく。

店の中だけでなく、普段は見られない店の裏側でも、多くの人たちが働いていることや様々な工夫があることに気付かせたい。



本文「店長さんの話」
お店は、お客さんの願いに合わせて様々な工夫することで、売り上げを高めようとしていることに気付かせる。

写真「知ってる？SDGs」

今回の学習で知った買い物における家庭の工夫や販売店の工夫から SDGs に結びつくものを考えさせる。また、SDGs という用語にふれることで次年度以降の社会科の学習や現代社会における課題に関心を持たせられるようにしたい。

写真「品物の産地」

見学の際に品物の産地についても調べさせておき、お店で売られている品物は、さまざまところから運ばれてきていることに気付かせる。

図

ここでは、品物が他の市や県、外国から運ばれてきていることを白地図にまとめさせたい。
その際、日本や外国の国旗についても扱い、国旗を尊重する態度を養う。



写真

可能であれば、見学の際にお客さんにインタビューすることも考えられる。買い物をするときのお客さんの願いと、お店の工夫の繋がりについて考えさせる。

本文「店長さんの話」

お店は、お客さんにこたえる工夫をすることで、お店の売り上げに繋がっていることに気付かせる。

p. 42、43	大単元名	2 はたらく人とわたしたちの暮らし	小単元名	② 店ではたらく人
写真 「まちの人々とともに」 本文 「店長さんの話」 スーパーマーケットやショッピングセンターなど多くの人たちが利用する店では、様々な人が利用しやすいよう工夫されていることに気付かせたい。 また、買う人の思いや考えが、店の工夫に生かされていることに気付かせることも大切である。 補助犬マーク ・ 盲導犬マークが介助犬等を含む補助犬マークに変わっている。  写真「まとめて発表しよう」 これまで学習したことを新聞にまとめたり、共同編集機能を用いて端末でまとめたりして発表する。学習内容に応じて、適切な発表方法を教師側が押さえておきたい。分かったことや考えたことが、分かりやすく表現できるように支援する。 発表例 ・ デジタルテレビを使っでの説明 ・ 壁新聞にまとめたの発表 ・ 1人1台端末を活用した発表				

小単元名 p. 44～47	①火事から くらしを守る	小単元の 目標	火事から地域の人々の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学、調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解するとともに、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする。
------------------	-----------------	------------	--

つ
か
む

p. 44◎火事が起きたら-全焼までの時間

- ・仙台市の火災に関するデータから、仙台市ではどうしてほとんどの火事が全焼する前に消し止められているのかという問いを見だし、予想を立て、小単元の学習への関心を高める。
- ・仙台市の火災件数、主な出火原因のグラフの一部を隠して、クイズ形式で資料を提示する活動も考えられる。

素早く消火するためにどのような工夫があるのかな？

消防署の人たちがどんな仕事をしているのか調べてみたいな！

学習問題

火事が起きたときや火事をふせぐために、だれが、どのような働きをしているのでしょうか。

調
べ
る

p. 45、46

- ◎ いざというときのために
ー消防署の取組ー
- ◎ 火事が起きたら
ー消防指令センターのはたらき

〈消防署の見学〉

どんなことを見たり、聞いたりするか、見学の前に決めておく。

〈事前指導の内容〉

準備物

見学の視点や質問の内容

挨拶や話の聞き方

「見学カード」への記入の仕方

インタビューの仕方

※消防署の見学が実施できない場合は、教科書や副読本、webなどの資料を活用して調べ学習に取り組む。

p. 47

◎ 火事をふせぐためにできること

火事を防ぐために消防署や地域の人々がどんな努力をしているのか調べる。

〈消防団について〉

消防団の取組について説明し、地域にも安全を守っている人がいることに気付かせる。可能であれば、消防団の人を招いて直接話を聞くとよい。

※情報コーナー

仙台市消防局	2 3 4 - 1 1 1 1
青葉消防署	2 3 4 - 1 1 2 1
宮城野消防署	2 8 4 - 9 2 1 1
若林消防署	2 8 2 - 0 1 1 9
泉消防署	3 7 3 - 0 1 1 9
太白消防署	2 4 4 - 1 1 1 9

ま
と
め
る

p. 47

標語を考えたりポスターを作ったりする

- ・学習したことをもとに、自分たちにできる防火の取組を考え、発表したり、標語やポスターで表現したりする。
- ・防火につながるキーワードを発表させ、それをつなぎ合わせてクラス標語を作る活動なども考えられる。

教科書の
活用

教科書では、事例地は異なるものの、学習の流れやイラスト資料等は生かせることが多い。教科書の内容も生かしつつ、地域の実態に合わせた指導を行うように配慮する。

p. 44、45	大単元名	3 暮らしを守る	小単元名	①火事から暮らしを守る
----------	------	----------	------	-------------

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、関係の諸機関が連携して消火や救助に当たるなど、一刻を争って事態に対処していることに気付き、自分の生活と関連付けながら、防火に対する意識を向上させ、実践的な態度を養うことである。導入段階で火事の恐ろしさに目を向けさせ、身近な防火設備を調べることによって、計画的な防火対策を行っていることに気付かせていきたい。調べ学習として、消防署の見学を取り入れたい単元である。

写真「火災・消火活動」
写真や VTR で火事の恐ろしさを捉えさせるとともに、消火活動を行う消防士に着目させることで、消防の仕事について関心を持たせる。

資料「仙台市の住宅火災件数」
火災に対して全焼の数が少ないことに着目させる。

グラフ「仙台市の火災と主な出火原因」
火災は減少傾向から横ばいで推移している。出火原因は電気関係が多い。

3 暮らしを守る

1 火事が起きたら…至速までの対応

火事から暮らしを守る

「火事かと思ったら、火が燃え広がって、大勢の人が逃げ出す。火事かと思ったら、火が燃え広がって、大勢の人が逃げ出す。火事かと思ったら、火が燃え広がって、大勢の人が逃げ出す。」

2 火災の発生状況

「火災が起きて 119 番にかけると、消防署が駆けつけて消火するんだね。」
「火災の発生状況を見て、火災の発生状況

p. 46、47	大単元名	3 暮らしを守る	小単元名	①火事から暮らしを守る
写真「県外での合同訓練の様子」 消防の活動は、市内にとどまらず、世界の国々や、他の地域にも及ぶことを確認したい。				
本文「消防指令センターの人の話」 消防指令センターについて説明し 119 番通報があると関連機関と協力して救急体制を取っていることを気付かせる。仙台市のみの活動にとどまらないことに触れる。なお、教科書では「通信指令室」となっているが仙台市消防局では「消防指令センター」と広報しているが役割に違いはない。				
図「火が発生した時の連絡の仕組み」 119 番通報した際の動きを図で表している。消防署だけではなく消防指令センターから様々な場所に矢印が向いていることに気付かせたい。				
写真「みんなが考えて作った防火ポスター」 調べたことや学習したことを基に、自分たちができる防火の取組を考え発表したり、標語やポスターなどで表現したりする。				
写真「防災訓練」 各団体に出向き、火災予防に対する指導を行ったり、市民に対する広報活動を充実させたりして、火災を防ぐ取組をしていることを理解する。				
本文「消防団の人の話」 消防団について説明し、地域にも安全を守っている人がいることに気付かせる。また、可能であれば消防団の人を招いて話を聞くとよい。				
<住宅用火災警報器について> 2006 年の消防法の改正により、新築住宅への設置が義務付けられた。既存住宅についても、2011 年の 5 月までに設置することが義務付けられている。				
<消防団について> 普段は別の職業で活躍している人たちが、地域で災害が発生すると消防団員として消火や救助等の活動に当たる仕組みになっている。 仙台市の消防団は市内の消防署ごとに設置され、7 消防団、56 分団、約 2,000 人の消防団員で構成されている。うち、女性消防団員は約 130 人である。				
※情報コーナー仙台 TUBE 「教えてセンパイ 消防団」の動画では消防団で働く人の思いを知ることができる。 https://youtu.be/QDE1NttxhL4				

小単元名 p. 48～51	②事故や事件から くらしを守る	小単元の 目標	事故や事件から地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、警察署による緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや関係機関が地域の人々と協力して事故の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする。
------------------	--------------------	------------	--

つ
か
む

p. 48

◎ 事故や事件から人々を守る。

- ・写真を活用して地域の安全を守るための取組について発表し合い、小単元の学習への関心を高める。
- ・「まもらいだー」の方や地域にある交番の警察官などをゲストティーチャーとして招き、話を聞くという活動も考えられる。

事件や事故が起きてしまったら、どうすればいいのかな？

警察署の人たちがどんな仕事をしているのか調べてみたいな！

学習問題

事故や事件から私たちの安全を守るために、だれが、どのような働きをしているのでしょうか。

調
べ
る

p. 49

◎ 事件をふせぐために

- ・事件を防ぐための警察署や地域の人々の取組について調べる。

〈仙台市のあきすの数〉—グラフ—

- ・空き巣の件数が平成27年に比べて減少していることをつかませ、事件を防ぐ取組について調べたり、考えたりする。
- ・自分たちが住んでいる地域にも、「防犯ボランティア」や「こども110番の店」「交通指導隊」など、まちの安全を守るための取組があることを紹介する。

* 情報コーナー

宮城県警察本部 221-7171

<http://www.police.pref.miyagi.jp/>

p. 50

◎ 交通事故をふせぐために

〈仙台市の交通事故の数〉—グラフ—

- ・グラフから交通事故の件数やけがなどをした人の数が減ってきていることを読み取りその理由を調べたり、考えたりする。

〈交通管制センターの見学〉

- ・宮城県警察本部内にある施設で、110番を受ける通信司令室に併設しており、併せて見学できるようになっている。

〈交通事故の時の連絡の仕組み〉

- ・前小単元の学習と関連させながら、県警察本部を中心にいろいろな役割を持った人たちが協力して事故を処理していることに気付かせるようにする。

ま
と
め
る

p. 51

◎ 安全に安心してくらするために

- ・まちの安全を守るために、自分たちにできることは何かを全単元で学習したことを踏まえて考えさせたい。表現活動としては、防犯標語やポスターづくり、安全安心マップの製作などの活動が考えられる。

教科書の
活用

教科書では、事例地は異なるものの、学習の流れやイラスト資料等は生かせるところが多い。教科書の内容も生かしつつ、地域の実態に合わせた指導を行うように配慮する。

p. 48、49	大単元名	3 暮らしを守る	小単元名	② 事故や事件から暮らしを守る
----------	------	----------	------	-----------------

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、地域社会の人々の安全を守るための関係機関の働きに気づき、従事している人々、地域の人々の工夫や努力を理解することである。導入段階でゲストティーチャーを招くなどの工夫をし、地域の安全を守っている人々の取組を調べる学習問題を設定する。前小単元との関連を図りながら、身近な生活から「安全」について考えさせていく。小単元のまとめの段階では、学区内の「安全安心マップ」作りなどの活動を取り入れるとよい。

写真

写真を基に、自分たちの暮らしのまわりには、安全を守る人がいることに気付かせる。

キャラクターの吹き出し

会話文から警察署の仕事に絞り込んでいくようにする。

* 情報コーナー *

宮城県警本部 221-7171
<http://www.police.pref.miyagi.jp/>
 泉警察署 375-7171
 仙台北警察署 233-7171
 仙台中央警察署 222-7171
 仙台東警察署 231-7171
 仙台南警察署 246-7171
 日本道路交通情報センター 050-3369-6666

グラフ「あきすの数」

空き巣の件数は平成 27 年から、減少傾向にある。事件を防ぐための取組に目を向けさせる。

学び方コーナー

算数で学習した棒グラフの読み取りと関連付けて指導する。

図「事件の時の連絡の仕組み」

この図を基に、事件に素早く対応するための工夫について気付かせる。

グラフ「交通事故の数」

交通事故の数は減少してきているものの、2000 件以上発生していることを読み取り、事故を防ぐ取組が必要なのに気付かせたい。

写真「宮城県交通規制センター」

宮城県警察本部内にあり、仙台市内及び周辺の信号機を制御している。車両感知器やテレビカメラを通して道路の渋滞状況が分かるようになっている。
 110 番を取り扱う通信司令室に併設しており、併せて見学が出来るようになっている。

図「交通事故の時の連絡の仕組み」

* 人身事故のときの対応例

県警察本部を中心とした事故発生時の連絡の仕組み、関係諸機関の協力について図示している。事故に素早く対応するための工夫について気付かせたい。

写真「パトカー・白バイのパトロール」

パトロールを行うことで、交通事故を防ぐ取組をしていることを理解する。

本文

まちの安全を守るために、自分たちにできることは何かを全単元の学習を踏まえて考えさせたい。表現活動としては、防犯標語やポスターづくり、安全安心マップの製作などの活動が考えられる。

小単元名 p. 52～63	市の様子と 人々のくらしの うつりかわり	小単元 の目標	市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、関係者や地域の人などに聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることで市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市の人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする。
------------------	----------------------------	------------	--

つかむ

p. 52～53

◎仙台駅前の写真を見比べよう。

◎かわってきた仙台市

- ・仙台駅前の建物や人々の様子について、気付いたことを話し合う。
- ・「戦災復興記念館ガイドボランティアの話」などから昔の様子についてわかったことを話し合う。
- ・昔の仙台市と今の仙台市の広さを見比べ、気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。
- ・疑問に思ったことを基にして学習問題をつくり、学習計画を立てる。

昔の仙台駅前の人や物の
ようすはどうか？

市域が広がって、どんなことが
変わっていったのだろうか？

学習問題

仙台市の様子は、いつごろ、どのようにかわってきたのでしょうか。

調べる

p. 54～62

◎交通のうつりかわり

◎土地の使われ方のうつりかわり

◎人口のうつりかわり

◎公共施設のうつりかわり

◎古い道具と今の道具をくらべよう

- ・時期による違いに着目して、聞き取り調査をしたり、地図などの資料で調べたりする。
- ・仙台市や人々の様子を捉え、それらの変化を考え、表現する。

p. 63

◎仙台市のうつりかわりをまとめてみよう

- ・調べたことを時期の区分や時間の経過に沿って一つの年表にまとめる。
- ・まとめた年表を見ながら、調べてきたことを相互に関連付けたり、結びつけたりして都市化や少子高齢化など仙台市全体の時期ごとの変化の傾向を考えさせ、分かったことを話し合う。

仙台市のうつりかわり年表の例



まとめる

p.63

◎ これからの仙台市について考えてみよう

- ・仙台市の発展のための取り組みについて調べる。
- ・市役所などが作成している資料などを基に、仙台市が将来どのようなになってほしいかを考えたり、討論したりする。
- ・学習してきたことを生かしながら、仙台市民としてどのように行動していけば良いかを考える。

教科書の活用

○ 主体的・対話的な学習を進めるために、教科書に記載されている「まなびのポイント」を活用したい。

○ 用語・語句を指導する際、教科書の「ことば」を活用したい。

○ 「調べ方」「まとめ方」を活用し、学習の見通しを持たせたい。

○ インタビューの仕方、見学の際のルールやマナーを確認させるため、まなび方コーナー「インタビューのしかた」を活用したい。

○ 調べたことを年表にまとめさせる際、まなび方コーナー「年表をつくる」を活用したい。

p. 52、53	大単元名	4 市のうつりかわり	小単元名	①市の様子と人々のくらしのうつりかわり
----------	------	------------	------	---------------------

【小単元の指導に当たって】

市の様子の変り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、関係者や地域の人などに聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることで市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は、時間の経過にともない、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

具体的には、仙台市歴史民俗資料館や仙台市戦災復興記念館などを見学させたり、児童の父母や祖父母に当時の様子の聞き取り調査をさせたりなど、体験的に学習を進めていきたい。また、市の移り変わりを考えさせ、表現させる際には、調べたことを相互に関連付けさせたり、比較・分類・総合させたりするなど、社会的事象の見方・考え方を働かせて学習を進めていきたい。

「戦災復興記念館ガイドボランティアさんの話」

取材日：2019年8月20日

取材に応じてくださった姉妹は、戦争や空襲の恐ろしさ、そして焼け野原になった後の仙台市民のたくましさを語っていた。戦後の人々の協力で、仙台は模範的な戦後復興と言われているとのことであった。

本文

1学期の単元「市の様子」で学んだことを十分に生かして本単元の学習に繋げたい。1学期に市の様子についてまとめた地図などと、昔の仙台市を見比べ、児童から疑問を引き出して学習問題をつくる。



写真「仙台駅前」

3代目駅舎(1945～1949)

⇒仙台空襲から1ヶ月後に木造バラックで急造されたもの。

4代目駅舎(1949～1972)

⇒大時計で親しまれた。

6代目駅舎(1977～現在)

⇒つくられた当初はペデストリアンデッキもバスプールもなく、出入り口は全て1階であった。

p. 54、55	大単元名	4 市のうつりかわり	小単元名	①市の様子と人々のくらしのうつりかわり
----------	------	------------	------	---------------------

地図・本文「交通のうつりかわり」

3つの地図を見比べ、仙台の交通の発展について考えさせる。新しい道路や新幹線、地下鉄などどのように整備されてきたか調べさせたい。

また鉄道という用語については、教科書 P128 を活用し、内容をおさえさせたい。

用語・語句

学習指導要領には内容の取り扱いにおいて「時期の区分について、昭和、平成など元号を用いた言い表し方などがあることを取り上げること」とある。教科書の「ことば」を活用して学ばせたい。

本文・写真

交通手段が増えたことにより、人々の生活がどのように変化したかを考えさせたい。

P57以降で国際化についても扱うので、国外との繋がりについても気付かせたい。

そして、交通が便利になった仙台市全体の変化についても意識させ、次の「土地利用の変化」や「人口の変化」へと繋げたい。

写真「仙台市電」

1926年に開業し、1976年に廃止された。仙台駅前、県庁市役所前、大学病院前などを繋ぐ環状路線と、原町や長町、北仙台、八幡へと延びる支線があった。現在は地下鉄富沢車両基地内にある「仙台市電保存館」にて、車両や関係資料が展示されている。



写真「仙台空港とアクセス線」

仙台空港は名取市にあるが、2007年に仙台駅から直通の仙台空港アクセス線が開業したことにより、仙台市の空の玄関口としてとても便利になった。

p. 56、57	大単元名	4 市のうつりかわり	小単元名	①市の様子と人々のくらしのうつりかわり
----------	------	------------	------	---------------------

地図・本文「土地の使われ方のうつりかわり」

3つの地図を見比べ、土地の使われ方の変化について考えさせる。泉パークタウンなどの住宅開発や、卸町、扇町周辺の工業団地建設など、大きく変わった仙台市の土地利用の様子について調べさせたい。

地図・本文「土地の使われ方のうつりかわり」

昔、中心部以外の山林や農地が多かった場所が、現在は住宅地に変わっていることなど、市全体を見渡して違いを捉えるようにすることも大切である。



市役所の人の話

昭和30年代から昭和50年代に、たくさんの団地が作られたことと、田や畑が減ったことを関連付けさせたい。また、次時の人口が増えたことにも繋げたい。

本文

交通網の広がりや、工場の立地を関連付けさせたい。仙台港の建設とも関連させ、計画的に土地の使われ方が変わってきたことに気付かせたい。

p. 58、59	大単元名	4 市のうつりかわり	小単元名	①市の様子と人々のくらしのうつりかわり
----------	------	------------	------	---------------------

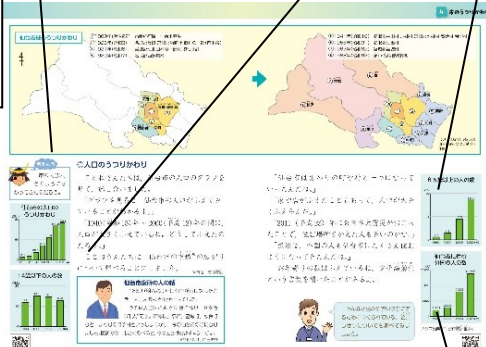
人口のグラフ（仙台市の人口）

人口の時期による違いに着目し、現在に至るまでに変化してきた仙台市の人口について調べさせる。その際、市町村の合併による仙台市の広がりなどにも触れることも大切である。

人口のグラフ

（14歳以下、65歳以上）

棒グラフを活用し、少子化や高齢化が進んでいることにも気付かせたい。



本文

行政区域の沿革

1889年 仙台市ができる。
1928年 長町、原町、南小泉を編入
1931年 七北田村、荒巻、北根を編入
1932年 西多賀村を編入
1941年 中田村、六郷村、七郷村、岩切村、高砂村を編入
1956年 生出村を編入
1987年 宮城町（愛子、作並、吉成、栗生など）を編入
1988年 泉市、秋保町を編入
1989年 政令指定都市となり、5つの行政区が設置される。

グラフ（外国人住民の人口）

人口の変化を取り上げる際、外国人居住者が増え、国際化が進んでいることなどにも気付かせたい。

地図・本文

「公共しせつのうつりかわり」

3つの地図を見比べ、公共施設の変化について考える。どのような公共施設が建てられてきたか、自分たちの学校や近くの図書館、市民センターなどの公共施設が建設された頃と、現在の仙台市の様子について調べる。



仙台市民図書館の館長さんの話
学習指導要領解説には、「公共施設との関連を図り」とある。

実際に市民センターや市役所、図書館へ行って見学したり、職員にインタビューしたりすることなども考えられる。

その際、公共施設の建設や運営には市役所が関わってきたことや、その建設や運営には租税が重要な役割を果たしていることにも触れることが大切である。

写真

公共施設については、学習指導要領解説には「学校、図書館、公民館、資料館などが考えられる」とある。

仙台市内の公共施設については、P92～の「仙台市内にあるいろいろな施設」も参照する。

本文

公共施設の建設と、仙台市の人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考えて表現させたい。

人々の生活の変化から、生活の道具や服装などの変化へと繋げたい。

写真・本文「古い道具と今の道具を比べてみよう」

生活の道具については、学習指導要領解説には「炊事や洗濯など家事に使用する道具や明かりや暖をとる道具など生活の中で使われた道具を取り上げること」とある。

ここでは、仙台市歴史民俗資料館の館長さんの話から関連付けて、暖を取る道具等を取り上げた。炊事や洗濯の道具については、教科書に載っているので参照したい。



表「仙台市のうつりかわりをまとめてみよう」

時期の区分や時間の経過に沿って、調べたことを年表などにまとめる技能を身に付けさせたい。そして、出来上がった年表を基に、それぞれの項目を相互に関連づけ、気付いたことや変化の傾向を文章で記述することもある。

仙台市歴史民俗資料館

大きく三つのテーマ別資料館がある。

- ・「農村の暮らし」
- ・「町場の暮らし」
- ・「旧陸軍歩兵第四連隊コーナー」

他に体験学習室なども常設している。

《体験できるもの》

折り紙、双六、チャカポコ、お手玉、けん玉などの伝承遊び

《事前に連絡しておくことで可能な体験》

- ・石臼による粉ひき体験
- ・行灯（あんどん）の明るさ体験

本文「これからの仙台市について考えてみよう」

パンフレットなどの資料を基に、これからの仙台市の発展に関心を持たせ、仙台市が将来どのようなようになってほしいか、そのためには仙台市民としてどのように行動していけばよいかなど、仙台市の将来について考えたり話し合ったりする。

小単元名 p. 64～71	①選択A くらしをささえる水	小単元 の目標	飲料水を供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする。
------------------	-------------------	------------	--

つかむ

p. 64～65

◎ 生活の中で使われる水 ◎水はどこから送られてくるのだろう

- ・「家や学校、町の中ではどこで水を使っているのかな」と問い、身近な生活に目を向けさせる。
- ・蛇口から出てくる水はどこからやってくるのかを考えさせる。
- ・生活の中でいつでも安心して水が使えることに注目させ、わたしたちのもとに届くまでにどんな工夫がされているのか予想させる。

水はどこを
通って来る
のかな？

水はどこで
きれいにし
ているのだ
ろう。

学習問題

わたしたちが使う水は、どこでどのようにきれいにされ、送られてくるのでしょうか。

調べる

p. 66～67

◎ じょう水場の仕組み ◎安全できれいな水をつくる

- ・浄水場の仕組みの概要について理解する。
- ※見学に行けない場合はQRコードの動画で見ることができる。
- ・安全な水を届けるための人々の努力や工夫を理解する。

p. 68～70

◎ どうして水はなくならないのだろう ◎水源を守るために

◎ 水はどのようにじゅんかんしているのだろう

- ・ダム役割について理解する。※QRコードで水道施設の確認
- ・水源涵養林の役割を理解する。

まとめる

p. 71

◎ 水の流れをまとめよう ◎水を大切に使うために

- ・水はどのように循環しているか、関係図を通して理解する。
- ・学習してきたことを関連付け、水の流れを自分の言葉でまとめる。
- ・水を大切に使うための取組について調べ、自分の行動に生かせるようにする。

教科書の活用

○安心して水が使えるようにするための仕組みを調べることで、その大切さや関わっている人々の努力や工夫に気付かせることができる。

○昔は水をどのように得ていたかなど、水道の歴史を学ぶことができる。

○事例を通して、水と自分たちとのかかわり方を学ぶことができる。

p. 64、65	大単元名	5 すみよいくらしをつくる	小単元名	①選択A くらしをささえる水
----------	------	---------------	------	----------------

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、飲料水の供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにすることである。飲料水の供給の経路や仕組みと、人々の生活との関連を考える場面においては、資料による調査や見学等を通して、水と自分とのかかわり方を考えさせることが大切である。

写真の活用

「家や学校、町の中ではどこで水を使っているのかな」と問い、身近な生活との関連に気付けるようにする。

グラフの読み取り

仙台市の人口の推移と配水量の関りのグラフを読み取る。その際には、学び方コーナーを活用する。



蛇口からの流れ

学校の蛇口からどのような経路で水が届けられているか、写真を活用して理解する。蛇口や水道メーター等については、自分の学校の写真を準備したり、実際に見に行く活動をしたりすることで学習の意欲向上につなげるようにしたい。

学習問題

疑問に思ったことを話し合った後、学習問題を設定する。学習問題に対する予想を十分に出し合い、それを基に学習計画を立てる。話し合う中で、学習の見通しを持たせたい。

p. 66、67	大単元名	5 すみよいくらしをつくる	小単元名	①選択A くらしをささえる水
----------	------	---------------	------	----------------

図「一般的なじょう水場の仕組み」

写真は中原浄水場の写真を掲載。仕組み図に対応した写真を確認しながら、水がきれいになる流れを理解させるようにする。

QRコードを読み取ると中原浄水場の様子を動画で見ることができる。



本文「じょう水場の人のお話」

浄水場で働く人々が工夫や努力をしていることは何かを考える。私たちの生命に欠かせない水を作る上で、「安全」ということを一番大切に考えていることに気付かせたい。

写真「四谷用水」

昔は生活に必要な水を四谷用水から取り入れていたことを写真からつかませる。現在の水道が整備される前のくらしの様子を想像させたい。

仙台市の水道のあゆみ

仙台市の水道がどのように整備されたのか、歴史の流れを年表で理解させる。当たり前にある水道が整備されるまでに長い年月がかかっていることを確認させ、人々の苦労や願いを考えさせたい。

p. 68、69	大単元名	5 すみよいくらしをつくる	小単元名	① 選択A くらしをささえる水
----------	------	---------------	------	-----------------

主なダムの役割

ダムがどのような働きをしているか、予想をした後に確認する。ダムがあることにより、水不足を防ぐことができ、安定的な水道水の供給につながっていることを理解する。



写真「水源涵養林」

水源涵養林の役割について理解する。緑のダムが、水源の水を保つことに役立っていることを理解する。

写真「清掃活動の人々」

水源涵養林を保つために、清掃活動を行う人々がいることをつかむ。人々の協力の必要性を考え、自分たちの行動へとつなげられるようにする。

QRコード「仙台市内外の水道施設」
QRコードを読み取ることで、仙台市内以外の水道施設の位置について確認する。

仙台市内外の水道施設と協力することも、安定的な水道水の供給につながっていることを理解する。

p. 70、71	大単元名	5 すみよいくらしをつくる	小単元名	① 選択A くらしをささえる水
----------	------	---------------	------	-----------------

水の循環図

水がどのように循環しているのか、図を用いて経路をたどるようにする。水はなくなるのではなく、循環していることを理解する。



水の流れをまとめる

学習してきたことを関係図にまとめる。書き出しの部分の続きを考える。文章でまとめることで、水の循環のイメージを持てるようにする。

水を再利用している施設

水資源を無駄にしないように取り組んでいる施設として「仙台うみの杜水族館」を取り上げている。身近にある施設でも、資源を大切にしていることをつかませる。

水を大切に使うために

これからの自分はどのように行動していくか、「水資源を大切にする」という視点をもとに考えるようにする。

小単元名 p. 72	①選択B くらしをささえる都市都 市ガス	小単元 の目標	都市ガスを供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、都市ガスの供給のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、都市ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする。
---------------	----------------------------	------------	---

つ
か
む

p. 72

◎都市ガスはどのように送られてくるのだろう

- ・「家や学校、町の中で都市ガスを使っているものにはどんなものがあるかな?」「どのくらい使っているのかな?」など、身近な生活の中から問題意識を持たせるようにする。
- ・都市ガスはどこからやってくるのかを調べさせる。

都市ガスはどこを通
って来るのかな?

どんな人の工夫や努力
があるのかな?

学習問題

わたしたちが使う都市ガスは、どこでどのようにしてつくられ、送られてくるのでしょうか

調
べ
る

p. 72

◎都市ガスがとどく仕組み
都市ガスの原料は何だろう

- ・都市ガスのメーターでどのくらい都市ガスを使っているのかを調べる。
- ・都市ガスに関する資料や都市ガス局のホームページを使って調べる。
- ・都市ガス局の方にお話を伺ったり、都市ガスのショールームや都市ガス工場を見学したりする。
- ・都市ガスが作られていく過程にたくさんの人々の工夫や努力があることにも目を向ける。

p. 72

調べて分かったことをまとめ、発表し
よう。

- ・図や写真などを活用し、分かりやすく説明できるようにする。
- ・都市ガスを作り出すためには他の県や国の協力が不可欠であることも地図などを活用してまとめる。

調べたり、考えたりしたこ
とを図や表などにまとめて
都市ガスの有効利用につい
て発信する。

ま
と
め
る

p. 72

調べてまとめたことや他のグループの発表を聞いて分かったことから、都市ガスの利用の仕方について考えよう。

- ・都市ガスを節約することは資源の有効利用にもつながることに気づき、図や表を作る。
- ・都市ガスに関わる人たちの安全に対する思いやシステムについて理解する。
- ・都市ガスの使い方について考える。

教科書の
活用

○生活にとって欠かせない飲料水、電気、都市ガスから一つを選択して取り上げる単元であることから、各校の実態に応じて適切に活用する。

p. 72	大単元名	5 すみよいくらしをつくる	小単元名	①選択B くらしをささえる都市ガス
-------	------	---------------	------	----------------------

【小単元の指導に当たって】

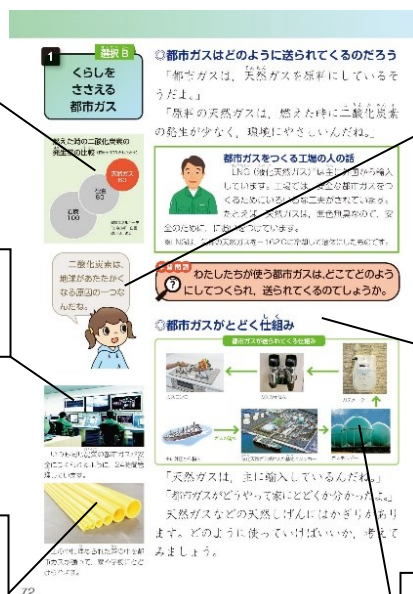
本小単元のねらいは、都市ガスの供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、都市ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにすることである。都市ガスの供給の経路や仕組みと、人々の生活との関連を考える場面においては、資料や調査等の調べ学習を展開しながら、都市ガスの使い方について考えさせることが大切である。

グラフ「燃えたときの二酸化炭素の発生量の比較」

天然都市ガスは燃えたときの二酸化炭素発生量が石炭、石油に比べて少ないことに気付かせるようにする。

コンピュータによって24時間管理されていることを写真により確かめる。

「都市ガスはどこを通過してくるのか」について考える際に、写真を活用したい。地中にある都市ガス管内を通り、都市ガスが運ばれていることを捉える。



二酸化炭素は地球温暖化の原因の一つであることを捉える。

本文「都市ガスがどくどく仕組みを考えよう」
ここでは都市ガスについて取り上げている。LP都市ガスについては、日本LP都市ガス協会のホームページに資料があるので参考にしたい。
(<http://www.jp-lpgas.gr.jp/>)

本文「都市ガスをどのように使っていけばよいか考えてみましょう」
都市ガスも限りある資源であることに気付き、これから自分たちにできることを考える。

小単元名 p. 73	①選択C くらしをささえる電気	小単元 の目標	電気を供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、電気の供給のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、電気を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする。
---------------	--------------------	------------	---

つかむ

p. 73

生活の中でどんなことに電気を利用しているのかを考え、電気がとどく仕組みを調べよう。

- ・「家や学校、町の中ではどんなことに電気を使っているのかな」など、身近な生活の中から問題意識を持たせるようにする。
- ・スイッチを押したりコンセントに差し込んだりするとつながる電気はどこからやってくるのか考える。
- ・「電気がなかったらどうなるだろう？」など停電の時を思い出す。

電線を伝わってくるのかな？

停電の時大変だったよ！

学習問題

わたしたちが使う電気は、どこでどのようにしてつくられ、送られてくるのでしょうか。

調べる

p. 73

◎ 電気はどのようにつくられるのだろう。

- ・電気をつくり出すために、いろいろな発電方法があることにも目を向けさせる。
- ・火力発電が最も多いことに気付かせる。

◎ 電気がとどく仕組み

- ・学校の電気メーターや繋がっている電線を実際に見学に行くとき。
- ・「東北電力でんきアドベンチャー」のホームページで詳しく調べることができる。
- ・定期的に点検され、いつでも安全に利用できていることを捉えさせる。

p. 73

調べて分かったことをまとめて発表しよう。

- ・フロー図を活用したワークシートなどを用意してまとめる。
- ・電気が作られていく過程にたくさんの人々の工夫や努力があることにも目を向ける。
- ・電気に関しては難しい言葉が多く出てくるのでクロームブック等を使い図や写真を活用し、分かりやすく説明できるようにする。

調べたり、考えたりしたことを図や表などにまとめて電気の有効利用について発信する。

まとめる

p. 73

調べてまとめたことや他のグループの発表を聞いて分かったことから電気の利用の仕方について考えよう。

- ・近年では、省エネを心掛け、人々が節電の努力をしていることに気付く。
- ・節電をすることは限りのある資源の有効利用にもつながることに気付き、節電を呼びかけるポスターを描いたり、自分にできることを考えたりする。

教科書の活用

○生活にとって欠かせない飲料水、電気、ガスから一つを選択して取り上げる単元であることから、各校の実態に応じて適切に活用する。

p. 73	大単元名	5 すみよいくらしをつくる	小単元名	①選択C くらしをささえる電気
-------	------	---------------	------	-----------------

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、電気の供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、電気を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにすることである。電気の供給の経路や仕組みと、人々の生活との関連を考える場面においては、資料や調査等の調べ学習を展開しながら、電気の使い方について考えさせることが大切である。

写真「再生可能エネルギー」

再生可能エネルギーについて意味を調べる。校舎に太陽光パネルが設置されている場合は見学することも考えられる。

図「電気がとどくしくみ」

例としてテレビを取り上げる。各家庭のコンセントまで、電気がどのように流れて来るかを図から読み取ったり、地域に変電所や送電線がないか調べたりする。

※東北電力>でんきアドベンチャー
<https://www.tohoku-epco.co.jp/kids/index.html>
 電気の作り方や送られてくる仕組みを調べることができる。

※新仙台火力発電所	022-366-1331
※三居沢電気百年館	022-261-5935
※女川原子力PRセンター	0225-53-3410
※J-POWER 鬼首地熱発電所展示館	0229-82-2141（冬期間休館）

グラフ「電源別発電電力量」

日本の発電の中でも火力発電が最も多いことに気が付かせ、新仙台火力発電所の場所を巻末の地図資料「仙台市のようす」で確認する。

電力会社の人の話

電気を安定供給するために定期的に点検していることについて理解する。また、写真から、作業には危険が伴うことに気づき、生活を守るための人々の努力についても考える。

小単元名 p. 74～83	②選択 A ごみと住みよいくらし	小単元 の目標	廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基にごみの減量のために自分たちが協力できることを考えようとする。
------------------	---------------------	------------	---

つかむ

p. 74～p. 75

◎ ごみについて調べてみよう。

- ・家庭や学校から出たごみを調べ、ごみの種類の違いやごみの量の多さに注目させる。

◎ 集積所の様子を調べよう。

- ・家庭で使用するごみ袋や集積所の様子からごみの収集の仕方に興味・関心を持たせる。

なぜ、ごみの種類ごとに集める日を決めているのかな？

集めたごみは、どこへ行くのだろう？

学習問題

わたしたちの生活から出たごみは、どのようにして処理されているのでしょうか。

調べる

p. 76～77

◎ 家庭ごみのゆくえをさぐろう。

- ・清掃工場を見学する計画を立てる。
- ・清掃工場における処理の仕方、環境への配慮、再利用について、他地域とのつながり、働く人の様子を調べる。

◎ 家庭でいらなくなった資源物のゆくえをさぐろう。

- ・資源化センターにおける、リサイクルの仕方やどんなものになるのかを調べる。

p. 78

◎ ごみの問題について考えよう。

- ・「仙台市の1人1日あたりの家庭ごみの排出量と人口の変化」のグラフから、人口は増加しているがごみの量は少しずつ減ってきていたことを読み取る。
- ・2011年にごみの量が増えた理由を考える（東日本大震災があったため）。
- ・仙台市のごみを減らす取組について知る。

※見学活動後は、調べて分かったことをノートや新聞にまとめることが考えられる。その際に「清掃工場の仕組み」「ごみを処理する際に出る熱の再利用について」「他地域とのつながり（最後に残った灰は、埋め立て処分場へ運ばれることなど）」についてまとめる。

まとめる

p. 79

◎ 自分たちにできることを考えよう。

- ・これまでの自分の経験やごみを減らす3つのポイント（リデュース・リユース・リサイクル：3R）を視点としてごみの量を減らすために自分ができることを話し合う。
- ・自分たちが考えたごみを減らす工夫について紹介し、ごみを減らすためにできることを話し合う。

（例）・プリントの再利用をする。

- ・再生品を積極的に使う。
- ・ポスターで呼び掛ける。
- ・ごみの量を減らすために、自分のできることをノートに文章で表現する。

ごみの処理についての工夫や協力が、自分たちの健康的な生活や住みよい環境の維持に役立っていることを理解する。

p. 74、75	大単元名	5 すみよいくらしをつくる	小単元名	②選択A ごみと住みよいくらし
----------	------	---------------	------	-----------------

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、清掃工場の見学などを通して、廃棄物の処理が計画的・協力的に行われていることを理解することである。導入では、自分もごみを出している一人であることを再認識し、廃棄物の問題は、私たちの身近な問題であることを捉える。量の増加とともに種類も多様化している廃棄物は、私たちの便利な生活と切り離せない問題であることに気付かせたい。その上で、人々の健康や生活環境と関連付けて捉えさせ、この環境問題を解決するために、生活の中で自分にできることは何かを考えさせることが大切である。

キャラクター吹き出し
日常生活の中で、いつどんな時にごみを出したか思い出したり、実際に出たごみを確かめたりして話し合う。

写真「収集日を知らせるステッカー」
学校、家庭、地域のごみ集積所と、調べる範囲を広げ、この先はどうなっているのかという課題につなげていく。集積所の看板などから、地域やごみの種類によって、収集日や出し方に違いがあることを捉える。

学び方コーナー

家庭や学校からでるごみの種類や量について調べ、表などにまとめる。調べる際には、個人のプライバシーに十分に配慮をする。

学習問題

調べたことを基に、家庭や学校から出たごみの行方について問いを見だし、学習問題を作りたい。その後、学習問題に対する予想を立てることで清掃工場の見学に意欲を持たせる。

p. 76、77	大単元名	5 すみよいくらしをつくる	小単元名	②選択A ごみと住みよいくらし
----------	------	---------------	------	-----------------

葛岡工場で働く人の話

周辺の住民や環境に配慮した燃やし方、ごみを燃やした熱を発電やプールなどに利用していることなどをつかむ。

蒸気タービン発電機で作られた蒸気は1基あたり、最大4、500kW発電する。

* 見学に当たっては、下記のことをしっかり押さえた上で、「わたしたちにできること」につなげていく。

- ・分別せずにごみを出すデメリット
- ・処理費用
- ・限度ある埋立処分場

(2)「かん、びん、ペットボトル、廃かん電池類」のゆくえ
手作業で細かく分別し、それぞれの材質に合わせて、リサイクルやリユースされることになる。手間が掛かるのに、それを行う理由などを考える。

図「家庭ごみの処理の仕組み」

見学の際には、実際に集められたごみの量や種類の多さを、実感できるようにする。処理に当たっては、コンピュータで集中管理しているなど、安全に配慮していることを理解する。

(3)「紙類」のゆくえ
平成20年10月1日から市内全域で月2回の無料回収が始まった。それまでは、家庭ごみとして捨てられることが多かったことを押さえる。
雑紙をリサイクルする意義についても改めて確認させる。

【調べ学習のために】

○仙台市ホームページ「くらしのガイドーごみの出し方」

○見学できるごみ処理施設

- ・今泉工場 (022-289-4671)
- ・葛岡工場 (022-277-5399)
- ・松森工場 (022-373-5399)
- ・葛岡資源化センター (022-277-8310)
- ・松森資源化センター (022-374-8853)

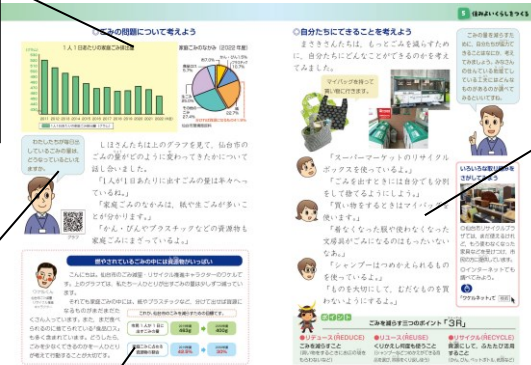
絵地図「ごみしよりしせつのあるところ」

自分たちの地域のごみは、どこの処理施設に運ばれるのかを確かめる。現在、埋立処分場は富谷市の石積(いしづもり)にしかなく、仙台市のごみを富谷市に運んでいることを押さえる。

グラフ「1人1日あたりの家庭ごみ排出量と人口の変化」
 2000年から始まった「ごみ減量大作戦」により、2010年まではごみの量は順調に減ってきた。しかし、2011年の震災により増加した。仙台市では再びごみの減量に向けて努力していることに気付かせたい。

先生の吹き出し
 グラフの見方についてはp. 64「学び方コーナー」と関連付けて指導する。2つの量の変化の関係について着目する。

本文「燃やされているごみの中には資源物がいっぱい」
 東日本大震災で、ごみの量が増加したが、市民の協力で少しずつ減ってきていた。ごみの減量を目指すために、市民一人一人が自分のできることに取り組むことが大切であることに気づき、次ページの学習につなげるようにする。



児童一人一人ができることを考えるとともに、実際に行動することが大事であることを理解する。
 学校でできることや家庭でできることを、小さな活動であっても、続けていくことが大切であることに気付かせたい。

※仙台市ごみ減量リサイクル情報総合サイト「ワケルネット」
<http://www.gomi100.com/>

小単元名 p. 80～83	②選択B 使われた水のゆくえ	小単元 の目標	廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるように進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基にごみの減量のために自分たちが協力できることを考えようとする。
------------------	-------------------	------------	---

つかむ

p. 80

○ 使った水はどこへ流れていくのだろう

- ・自分の生活を振り返り、どんな時に汚れた水を出しているか考える。また、家庭や学校から出る下水について具体的に調べる。
- ・使用後の水の行方を予想し、処理の仕組みに関心を高める。

洗剤の泡や絵の具を洗った水はかなり汚れているよ。

使われた水はどこへ行くのだろう。

学習問題

わたしたちの生活から出るたくさんの下水は、どのように処理されているのでしょうか。

調べる

p. 81

○ 下水道の仕組みを調べてみよう

- ・副読本の図やマンホールの写真を提示し雨水は雨水管を通して川や海につながっていることに気付く。
- ・生活で使われた水は、污水管を通してポンプ場に集められ、圧力をかけて浄化センターへ送られることを理解する。

p. 82～83

○ 浄化センターの仕組み

- ・浄化センターを見学する計画を立てる。
- ・処理の仕方、環境への配慮、再利用、働く人の様子を調べる。

※見学ができない場合は、仙台市下水道ホームページで調べたり、出前講座等を活用したりする。

まとめる

p. 83

自分たちにできることについて考えよう。

- ・自分たちが考えた水を汚さない工夫について紹介し、私たちの生活と水とのかかわりについて話し合う。
(例)・油や牛乳をそのまま流さないようにする。
 - ・下水道管が詰まるので、食べ残しを流さないようにする。
 - ・側溝にごみを捨てない。
 - ・地域の側溝掃除に参加する。
- ・汚れた水を出さないために自分にできることをノートに文章で表現する。

※見学活動後は、調べて分かったことをノートや新聞にまとめる。その際に、「浄化センターの仕組み」「下水を処理する際に出る汚れや泥を固めてセメント原料として再利用していること」「下水道があることで役立っていること」などについてまとめる。

下水の処理についての工夫や協力が、自分たちの健康的な生活や住みよい環境の維持に役立っていることを理解する。

p. 80、81	大単元名	5 すみよいくらしをつくる	小単元名	②選択B 使われた水のゆくえ
----------	------	---------------	------	----------------

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは、浄化センターの見学などを通して、廃棄物の処理が計画的・協力的に行われていること、汚水の処理は、人々の健康な生活を守るとともに、水を自然界で循環させていくためにも大切な働きであることを理解することである。導入では、使った水の行方調べなどを行い、自分も汚水を出している一人であることに気付かせたい。そして、汚水の問題は、私たちの身近な問題であることを踏まえた上で、水を大切に使用したり自然環境を守ったりするために自分に何ができるのかを考えさせることが大切である。

本文「使った水はどこへ流れていくのだろう」

生活などで使った水は、その後どうなっていくのか、予想する。

グラフ「仙台市で使われる水の割合」「家庭で使われる水の割合」

家庭で多くの水が使われていることに気付かせる。日常生活の中で使った水がどこに流れていくのかを考えさせる。

写真「洗濯の様子」

児童にとって身近な場面として例示している。このほかにもたくさん考えられるので、児童が話し合うきっかけとして活用する。



※平成 12 年度「仙台市下水道基本計画」に基づき下水道の改善が進められている。平成 16 年度からは、全戸水洗化を進めており、平成 25 年度末の人口普及率は 99.5%となっている。

図

マンホール調べの後、図でまとめるようにする。家庭からの汚水と雨水は、違う管を通ることから、家庭排水が直接川に流れ込むことはないことをおさえる。

写真「汚水マンホールのふた」

たくさんの汚水が地上にあふれることなく流れていく理由を考える。

写真のような大きなポンプ場のほかに、マンホールポンプ場という小さなものが 185 箇所ある。

※仙台市の下水道は、藩政時代、城下町の中を巡らせた「四谷用水」に始まる。近代的水道は、明治 32 年、ヨーロッパの下水道施設に学び建設が始まった。東京・大阪に次いで全国 3 番目。しかし、当時はまだ、広瀬川・梅田川に直接流していたため、水質汚濁が進んだ。

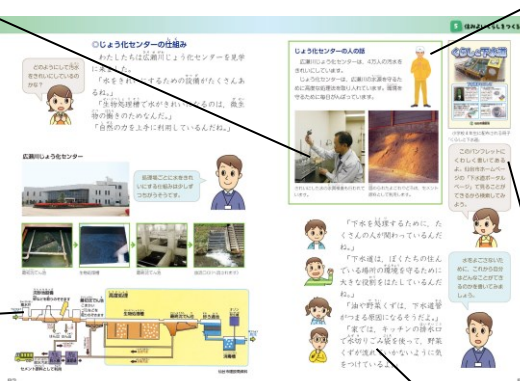
p. 82、83	大単元名	5 すみよいくらしをつくる	小単元名	②選択B 使われた水のゆくえ
----------	------	---------------	------	----------------

写真「水質検査」

川に放流する前には、水質検査を行い、環境への配慮をしていることをしっかりと捉えさせる。

写真「浄化センターの様子」

浄化する工程のうち、代表的な工程を示してある。施設全体の写真と、下の絵図を照らし合わせながら仕組みについて考えるとよい。



浄化センターの人の話

働く人の努力や環境への配慮などをとらえる。また、汚水の処理後、汚れや泥が残ることから、それらも埋め立てる必要があることを理解する。

仙台市建設局資料

下水道は、感染症の予防など、私たちの健康な生活を守る上でも大切な働きをしていることに触れる。

児童の発言

一般論ではなく、自分ができることを具体的に考え、実際に学校でも実践できるようにする。

広瀬川浄化センター（千青葉区折立 3-20-2）

仙台市では広瀬川環境を守るために、「広瀬川の清流を守る条例」により汚染された排水の広瀬川への放流を禁止している。広瀬川浄化センターは、条例を守る性能を備えて、平成 5 年に供用を開始した。

小単元名 p. 84～91	自然災害からくらしを守る ～地震からくらしを守る～	小単元の目標	自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、さまざまな備えをしていることを理解できるようにするとともに主体的に学習問題を解決しようとし、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとする。
------------------	------------------------------	--------	---

つ
か
む

p. 84、85

◎ 仙台市で今までに起きた自然災害 ◎東日本大震災の発生

◎ 地震とわたしたちのくらし

- ・写真や新聞記事を活用し、過去に市内で発生した地震や大雨の恐ろしさに目を向け、小単元の学習への関心を高める。
- ・東日本大震災によってどんな被害を受けたか、人々の生活にどんな影響があったかなどを、話し合う方法も考えられるが、現在も心のケアが必要な児童がいることを考え、十分に配慮して授業を行う。

仙台市内では、今までにも大きな地震や大雨で大きな被害を受けたんだね。

地震や津波に備えてどんな準備をすればいいのかな？

学習問題

地震からわたしたちのくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのでしょうか。

調
べ
る

p. 87

◎ 家庭や学校・通学路でそなえていること

非常持ち出し袋や家具の転倒防止のためのつっぱり棒など、家庭で備えていることを調べる。また、防災備蓄倉庫を見学し、学校が避難所になった場合を考えて、準備していることを捉える。

p. 88

◎仙台市の取り組み

仙台市では東日本大震災を受けて、津波への対策を進めている。いくつもの対策を組み合わせる多重防御を行っている理由を考えることで、安全にくらせるまちづくりを進めていることを理解する。

p. 89

◎関係の協力、救助・救援活動

仙台市役所を中心とした地震や津波が起きた時の連絡の仕組みを図にまとめている。関係機関が協力して救助・復旧作業に当たっていることを捉える。

地震の発生後には、自衛隊員や消防署員、水道局・ガス局の人など、たくさんの人たちが救助や救援、復旧工事に取り組んだことを理解する。

p. 90

◎ 地域の協力の様子について調べよう

連合町内会長さんの話を読み、地域での活動の様子を読み取る。また、東日本大震災の際には日本各地、世界各地から救援の手が差し伸べられたことを理解する。

p. 91

◎トピックス
「むかしからの言い伝え」

地域にある災害の歴史を知る。

※仙台市役所のホームページ→市政情報→ともに、前へ→全国の皆様→フォトアーカイブのページに東日本大震災関連の写真が保存されている。復興の様子についての写真もあるので、ぜひ活用したい。

ま
と
め
る

p. 91

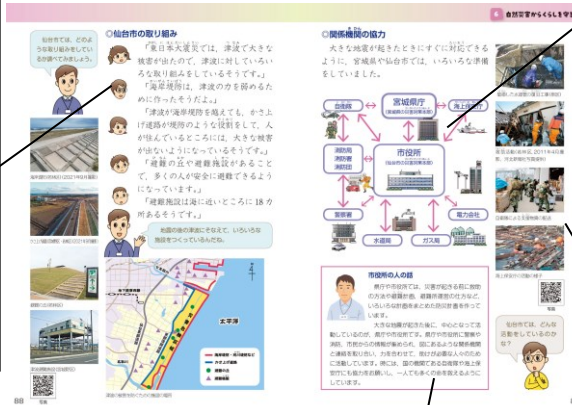
◎ 地震の被害を少なくするために、どんなことができるだろう

各校にある防災備蓄倉庫や地域ごとの防災訓練を想起させ、自分たちにできることを話し合う。

p. 84、85	大単元名	6 自然災害からくらしを守る	小単元名	①市内で今までに起きた自然災害
写真 1978年の宮城県沖地震や2019年の土砂災害等を写真で掲載した。仙台市は東日本大震災以外にも、度々大きな災害に見舞われていることを確認する。 これからも災害が起こる可能性があることを捉え、災害への備えがどのように行われているのかについて関心を高める。 身近に起きた地震を想起させ、被害の状況などを確認する。		巨大地震（東北地方太平洋沖地震）の概況 ○発生日時 平成23年3月11日 14:46 ○震央地名 三陸沖 ○規模 マグニチュード9.0（暫定値） ○市内震度 震度6強（宮城野区） 震度6弱（青葉区、若林区、泉区） 震度5強（太白区） ○津波 太平洋岸に大津波警報発令 津波の高さ7.2m（推定） ※詳細は仙台市発表資料を参照 写真「市内西部の団地」（青葉区） 丘陵地域の宅地で、崩落・地滑り等が発生した。 ※昭和30年代後半～40年代に造成 新聞「震災1ヵ月 死者1万3013人」 新聞社では災害時などを想定し、緊急時新聞相互支援協定を締結している。河北新報社も震災当日、紙面制作システムが動かさない事態となり、新潟日報社に号外と翌日の朝刊の紙面制作を依頼し、新聞の発行を続けた。		

p. 86、87	大単元名	6 自然災害からくらしを守る	小単元名	②地震からくらしを守る
写真 東日本大震災から10年以上過ぎ、震災当時の出来事を知らない児童が増えている。写真を手掛かりに当時の様子を読み取るようにする。学校にも大きな被害が出たことから、災害からくらしを守るための取組について関心を高める。 3人のキャラクターの吹き出し 学習問題「だれがどのようなことを」に対応した言葉。調べ学習の手掛かりとして活用する。 写真 校内にある場合は見学に行くようにする。		本文「家庭や学校・通学路でそなえていること」 各家庭での備えや地域での備えを写真や文章から想起し、災害が起きたときにどのように使われるかについて考える。 防災副読本「3.11から未来へ」 この单元では、防災副読本を活用し、その他の取組についても調べるようにする。 QRコード 水道局のパンフレットで災害時の給水栓を確認する。		

本文「仙台市の取組」
東日本大震災以降の津波対策の概要がまとめられている。図や写真を読み取ることで多重防御と呼ばれる取組を行っている理由を考え、津波の被害を少なくするための工夫について理解する。



図「関係機関の協力」
仙台市（市役所）を中心とした取組を調べる。関係機関が協力して救助・復旧作業に当たっていることを理解する。

復旧、救援活動の写真
震災時には、多くの関係機関から救助の手が差し伸べられた。仙台市の災害対策本部からの連絡などがあり、これらの機関が協力して取り組んでいることを理解する。

本文「市役所の人の話」
災害が起こる前、起きた後について市役所の取組を調べる。

本文「連合町内会長さんの話」
災害時に備え、町内会では防災組織を作り、物資の備蓄や訓練などを行っていることを理解する。また、災害発生時には地域の協力が不可欠であることに気づき、自分たちにもできる活動はないか考える。

写真
給水車の出動、自衛隊による病院の開設、ガスの復旧工事など、震災後の様子を振り返る際の参考にする。



本文「仙台市地域防災計画」
仙台市では、東日本大震災での経験を生かし、災害のために仙台市地域防災計画を改定した。繰り返される災害への対策をしていることを理解する。

本文「多くの人々が集まり協力して働いてくれました」
人々の思いにも触れながら、市民のために、多くの人々がそれぞれの立場で働いていたことを理解する。

p. 92、93	大単元名	3 年 わたしのまちみんなのまち	小単元名	市の様子
【指導に当たって】 仙台市内の主な公共施設について取り上げており、知っている施設を確認することや施設の紹介など校外学習の事前指導の資料としても活用できる。				
八木山動物公園フジサキの杜 1936 年に日本で 11 番目の動物園として仙台市花壇に開園した。1965 年に現在の八木山に新築移転した。 仙台市天文台 1955 年に西公園内の仙台市公会堂跡地に開台。2008 年に現在の青葉区錦ヶ丘に移転した。 スリーエム仙台市科学館 昭和 43 年に仙台市中心部に開館。平成 2 年に現在の台原森林公園内に移転した。 仙台文学館 郷土ゆかりの文学に関する資料を収集保存するとともに、地域の文学活動の拠点となることをコンセプトに平成 11 年に開館 弘進ゴムアスリートパーク仙台（仙台市陸上競技場） 2009 年に宮城県から仙台市に譲渡される。2011 年にはトラックの大規模修理が行われた。 せんだいメディアテーク 2001 年に開館。仙台市民図書館、ギャラリー、イベントスペース、ミニシアターなどからなる。全面ガラス張りの建築は建築家伊藤豊雄の代表作と言われる。写真右は併設されている仙台市民図書館 仙台うみの杜水族館 「復興を象徴する水族館」として、2015 年に開館。80 年の歴史を閉じたマリニピア松島水族館の一部を引き継ぎ、さらにスケールの大きな展示やイベント等を展開する。 震災遺構仙台市立荒浜小学校 被災した校舎のありのままの姿と被災直後の写真展示により、津波の威力や脅威を実感してもらうことを目的として、平成 29 年 4 月に公開が始まった。				

p. 94、95	大単元名	5 年 わたしたちの生活と工業生産	小単元名	くらしを支える工業生産
【指導に当たって】 地域の工場を取り上げる場合、工場見学を学習計画に取り入れることが考えられる。また、工業製品と自分たちの暮らしの結びつきにも気付かせたい。				
仙台味噌 仙台藩では、城下に御塩噌蔵（おえんそぐら）を作らせ、ここで味噌の醸造や貯蔵をさせた。また、江戸にあった仙台藩の屋敷では、江戸にいる藩士のために味噌を作っていた。これを近所の住人の求めに応じて分け与えたところ、江戸中の評判になったという。 おけがえ 「桶替え」と書き、樽に入っている味噌をスコップですくい、別の樽へと味噌を移す作業のこと。多くの空気と触れさせることで味噌のおいしさが増す。 仙台みそをつくる工場 仙台市内に残る伝統的な味噌作りの様子を学習する手がかりとなる。昔ながらの道具に加え近代的な道具も使って仕事が進められている。 「輪転機」 最大 40 ページ、24 個面カラー印刷が可能な高速タワー型オフセット輪転機（17 万部／時）を 4 セット備えている。 環境に優しい取組 インキの VOC（Volatile Organic Compounds＝揮発性有機化合物）を低減するために使用する溶剤の一部を大豆油に置き換えた Soy Ink（大豆油インキ）を使用している。 新聞工場見学の申込先 河北新報印刷センター TEL/022-777-3880 FAX/022-777-3890				

p. 96、97	大単元名	4年きょう土の伝統・文化と先人たち 5年情報化した社会と産業の発展	小単元名	谷に囲まれた台地に水を引く 情報産業とわたしたちの暮らし
【指導に当たって】 河北新報の創設に関わった一力健治郎についての資料として活用できる。 NHK仙台放送局を例に、ニュース番組が放送されるまでの流れをつかませることができる。				
河北新報社の設立 「東北振興」等の言葉から、設立時の一力健治郎の思いをつかませたい。また、こうした考えが現在にも引き継がれていることにも気づかせたい。		NHK 仙台放送局 放送局では学校の見学受付を行っている。 住所/青葉区本町2丁目20-1 TEL/022-211-1001(見学の受付)		
一力健治郎 1863年、仙台市の大町に生まれる。20歳を過ぎ、東華学校(仙台第一高等学校)、旧制第二高等学校(東北大学)、東京の学校にも進学。市会議員や県会議員を務めた後、新聞を東北地方の文化と産業の発展に役立てようと、河北新報社を設立。1897年、33歳で河北新報を創刊。当時は新聞をとる人が少なく苦しい経営だったが、様々な努力を重ねた。		 河北新聞の昔と今の紙面を比較できる。 昔の紙面: 明治40年6月22日発行 今の紙面: 令和4年8月22日発行 ニュース番組が放送されるまでの流れをつかむことができる。 放送局の見学を取り入れる場合は、放送の仕方や放送局の様子を見学するとともに、放送に携わる人々がどのようなことに配慮しているのかについて調べるようにする。		

p. 98	大単元名	5年 情報化した社会と産業の発展	小単元名	情報を生かす産業
【指導に当たって】 「仙台市交通局」の取組を例に、運輸業（バス、地下鉄）の利用サービスに、情報が生かされていることを示す資料として活用できる。こうした取組が市民の暮らしにどのように役立つのかを考えさせたい。				
仙台市交通局では、パソコンやスマートフォンを使ってバスや地下鉄の運行状況や時刻表などを手軽に検索することができる情報サービスを展開している。実際に検索をして、利用者がどのような情報を調べることができるのかを確認できる。				
「せんだい市バス・地下鉄ナビ」 「経路・運賃を調べる」「時刻表を調べる」「定期券を調べる」の3つの項目から、利用者が用途に合わせて選択し、検索することができる。		「どこバス仙台」（バス接近情報） 指定した乗車停留所（出発）と降車停留所（到着）のバス接近情報を検索することができる。		
		スマートフォンなどを使わない人のために、「表示器」などを使った情報の「見える化」が進められることにも触れ、多くの人にとって便利で使いやすいサービスを展開していることを理解する。		
参考 仙台市交通局 ホームページ https://www.kotsu.city.sendai.jp/				

p. 99、100	大単元名	6年 わたしたちの生活と政治	小単元名	わたしたちのくらしと日本国憲法 国の政治のしくみと選挙
【指導に当たって】 図から市民、市役所、市議会の関係をつかませ、市民の願いを実現するための政治の役割に気付かせたい。また、税金の使われ方から、市民の生活を支えるための税金の役割にも気付かせたい。 豊かなくらしを実現するために、日本国憲法がどのような働きをしているか考えさせたい。ここでは、「基本的人権の尊重」と子育てが安心してできるまちやユニバーサルデザインとの関わり、「国民主権」と裁判所の関わりについて取り上げている。				
市民の願い、市役所、市議会 図から、市民の願いが政治によってどのように実現されるかを理解する。市役所、市議会のそれぞれの役割を調べ、それぞれどのような関わりがあるか考える。				みんなが暮らしやすいまちに 誰でも安心して暮らすことができるまちづくりにはどのようなことが必要か、福祉の視点から考える。
税金の働き 税金が様々なことに使われていることについて、具体的な例を挙げて話し合う。		仙台高等裁判所 高等裁判所は、主に第二審を担当し、札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、高松、福岡に置かれる。仙台高等裁判所では、小・中学生を対象とした見学を受け付けている。 住所/青葉区片平1丁目6-1 TEL/022-745-6194、6195 (見学の受付)		

p. 101	大単元名	3年 わたしたちのまちみんなのまち	小単元名	市の様子
		6年 日本の歴史		縄文のむらから古墳のくにへ
【指導に当たって】				
歴史の学習の入り口として、仙台市内にある遺跡や施設の見学を取り入れたい。地底の森ミュージアム、縄文の森広場では、見学のワークシートや体験メニューを用意している。				
仙台市富沢遺跡保存館 地底の森ミュージアム		仙台市縄文の森広場		
富沢遺跡は仙台市の東南部に広がる面積が約 90ha という広大な遺跡。昭和 57 年(1982)から発掘調査が行われ、弥生時代から明治時代にかけての大規模な水田遺跡として知られるようになる。その後の調査で下層から縄文時代の層が確認され、昭和 63 年(1988)に初めて旧石器時代のたき火跡が見つかったことから、富沢の歴史が 2 万年前の氷河期までさかのぼることが明らかになった。		昭和 55 年(1980)に発掘調査が行われる。縄文時代のムラ全体の様子が分かる遺跡として保存される。「上ノ台」という地名が表すように、標高 55mの見晴らしのよい高台に位置する。太古には南側を流れている名取川の河原だったために、ほぼ平らな土地になっている。縄文のムラがあった頃は今よりも近くを名取川が流れ、台地のまわりには豊かな森が広がっていたと考えられる。		
仙台市の遺跡				
市内には多数の遺跡があるが、代表的な遺跡として遠見塚古墳を紹介している。市内の遺跡については、文化財課のホームページからも調べることができる。				

p. 102、103	大単元名	6年 日本 の 歴史	小単元名	戦国の世から天下統一へ
【指導に当たって】				
仙台藩 62 万石の基礎を築いた伊達政宗の生涯について紹介している。全国統一を進めた 3 人の戦国武将（織田信長、豊臣秀吉、徳川家康）と関連付けた学習の展開も考えられる。				
仙台市博物館			政宗の持ち物	
博物館では伊達政宗や仙台藩の様子について学ぶことができる。施設を利用し、実物資料を見ながらの学習を展開したい。			政宗のよろいかぶとから戦国時代の戦の様子について想像する。陣羽織やブローチから、当時南蛮文化が伝来し、政宗が目をつけていたことについて理解する。	
住所/青葉区川内 26 番地 TEL/022-225-3074（見学の受付）				
「伊達政宗画像」			伊達政宗年表	
両目が描かれていることなどに着目させ、後に独眼竜と言われた政宗のエピソードに興味を持たせたい。左上は、政宗が晩年、自分の気持ちを詠んだと言われる漢詩。			戦国時代から江戸時代初期にかけて活躍した政宗の生涯について理解する。	
伊達 政宗 永禄 10 年 (1567)、米沢 (山形県米沢市) に生まれる。父は輝宗、母は山形城主最上義光の妹にあたる義姫。幼少期に右目を失明し、後に「独眼竜」と呼ばれる。18 歳で家督を継いだ政宗は、翌年の父輝宗の非業の死を乗り越え、蘆名、相馬、大崎、最上など、近隣の戦国大名らと戦う日々を送る。しかし、この頃豊臣秀吉による天下統一が推し進められ、豊臣政権下の大名へと転身することになる。豊臣と徳川の対立による動乱の後、徳川幕府が成立し、江戸時代を迎える。政宗はこうした動乱の時代を乗り越え、東北の雄から全国有数の大名へと成長をとげる。仙台城の築城、城下町の整備、新田の開発、寺社の造営・再興、北上川の河川工事等、仙台藩 62 万石の礎を築いた。				

p. 104、105	大単元名	6年 日本の歴史	小単元名	江戸幕府と政治の安定
【指導に当たって】 慶長遣欧使節と支倉常長については、江戸幕府によるキリスト教の禁止と関連付けて学習を展開することが考えられる。また、慶長遣欧使節がユネスコの世界記憶遺産に登録されていることについても触れたい。実物の資料については、仙台市博物館で見学できる。また、貸出教材（写真パネル、画像データ）として授業で活用することもできる。 林子平については、江戸時代の後期に外国船が日本に開国を求め接近したことや、幕府を批判する学者などが現れたことと関連付けて、学習を展開することも考えられる。				
支倉常長像 ロザリオを持つ支倉常長が、キリストに祈りを捧げている。絵を折り曲げたような跡がある点に着目し、当時の日本ではキリスト教が禁止されていたことと関連があることに気付かせたい。			林 子平 1738 年、江戸に生まれる。兄が藩医となった縁で、家族と共に仙台に移り住む。子平は江戸や長崎など全国を遊歴し、ロシアの南下政策や欧米の植民地政策など外国の形勢を見聞した。「世界之図」は、子平が長崎で通訳の松村元綱が持っていた「世界之図」を模写したもの。「海国兵談」は子平の代表的著作。青葉区子平町の龍雲院に子平の墓がある。	
慶長遣欧使節 サン・フアン・パウティスタ号に、総勢 180 人を乗せての船出であった。一行には宣教師のルイス・ソテロが同行し、通訳として活躍する。ソテロは政宗にローマに使節を送ることを熱心に勧めていた。			ローマ市民権証書・パウロ五世像 ローマ市議会が常長にローマ市の市民権を与え、貴族に列する旨を認めた証書。パウロ五世像は、常長らがローマで謁見した、ローマ教皇パウロ五世の肖像画。	

p. 106、107	大単元名	3年 わたしのまち みんなのまち 3年 市のうつりかわり 6年 日本の歴史	小単元名	市の様子 市の様子と人々のくらしの うつりかわり 長く続いた戦争と人々のくらし
------------	------	---	------	--

【指導に当たって】

地域の歴史を知る手がかりになる施設、様々な遺跡や辻標、神社、寺などを取り上げている。遺跡や文化財に携わる人、博物館、公民館、地域の人に話を聞くなどしながら、学習を展開したい。また、教師が地域の歴史について調べる際、「仙台市史」等の自治体史も活用したい。

仙台市戦災復興記念館では、戦時中の人々の暮らしや、仙台空襲の様子から街の復興までの様子について学ぶことができる。学習計画の中にぜひ施設の見学を位置付けたい。

史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設/仙台城見聞館

どちらも文化財課管轄の施設であり、観覧無料で見学することができる。国分寺跡～見聞館など地下鉄東西線を利用した校外学習でも活用可能。ガイダンスの対応も行っている。(事前予約必要)

歴史を知る手がかり

遺跡や神社、寺、道しるべ石等から、地域の歴史に触れることができる。機会があれば、地域に残る歴史の跡を是非訪ねてみたい。



仙台市戦災復興記念館

昭和20年(1945)7月10日未明、午前0時3分、仙台市中心部に12、960発の爆弾が落され、約500haを焼失。身元が判明した方だけで、1064名もの人命が失われた。戦災復興記念館は、未来への記憶として、世代を超えて語り継ぐために、昭和56年(1981)に、戦災復興事業の締めくくりとして開館した。

仙台空襲を体験した方の話 (元東二番丁小ゲストティーチャー 今井さん)

戦時中の仙台、空襲の様子を伝える資料。戦災復興記念館では学習教材用DVD資料を貸出す他、戦争の語り部の紹介、職員による館外での出前授業を受け付けている。授業に合わせて活用したい。

p. 108、109	大単元名	4年きょう土の伝統・文化と先人たち	資料	仙台市名誉市民
------------	------	-------------------	----	---------

【指導に当たって】

仙台市の発展に尽くした、仙台市名誉市民について取り上げている。地域の発展につくした人々について調べ、その業績や苦心を知ることで、地域に対する誇りと愛情を育てたい。

本文「仙台市名誉市民」

仙台市では、これまで22名の方々に、名誉市民の称号を送っている。ここではそれぞれの功績について紹介している。

「仙台市名誉市民について」

仙台市役所1階「市民ギャラリー」や仙台市のホームページで参照することができる。また、仙台市史通史編「現代2」にも名誉市民の業績がまとめられている。

※平成元年までの表彰者



《表彰年一覧》

- S24 本多光太郎・志賀潔・土井林吉(晩翠)
- S31 熊谷岱蔵・榎有恒
- S34 村上武次郎・阿部次郎・増本量・野副鉄男
- S36 内ヶ崎賛五郎
- S39 一力次郎・黒川利雄
- S44 千嘉代子
- S52 菊地養之輔・加藤多喜雄
- S59 西澤潤一
- H元 石田名香雄
- H8 加藤陸奥雄・杉村惇
- H16 小田滋 一力一夫
- H26 岩崎俊一

p. 110、111	大単元名	4年きょう土の伝統・文化と先人たち	資料	本多 光太郎
【指導に当たって】 鉄の神様と言われた「本多光太郎」の業績を取り上げている。東北大学金属材料研究所本多記念館では、KS 磁石鋼、新 KS 磁石鋼を始め、本多の業績がわかる様々な資料が展示されている。				
写真「本多光太郎」 KS 磁石鋼の写真や、切手から本多の業績に関心を高める。	本文 光太郎は「産業は学問の道場」という言葉を残し、産学共同を重視、博士の尽力により、多くの新しい企業が仙台に誕生した。	「本多光太郎の年譜」 光太郎に関する「出来事」や「業績」について、年代を追って記載した。少年期や青年期の様子については、本文から読み取る。		
光太郎の少年時代 小学生時代は、「鼻たらしの光さん」と呼ばれ、特に暗記が苦手だった。そのためにしばしば学校へは行かずに魚とりなどをして過ごしていた。」と伝えられている。	説明「寺田先生の言葉」 光太郎の才能を見出した寺田先生の言葉が、学問の道を強く志すきっかけとなった。		「KS 磁石鋼」 鉄及び鉄合金の研究に励み、強力な磁石鋼である KS 磁石鋼を、さらにその 4 倍近い保磁力を持つ新 KS 磁石鋼を発明し、文化勲章を受章した。	「東北大学金属材料研究所本多記念館」 本多光太郎に関する資料が保管されている。 住所/青葉区片平 2-1 TEL/022-215-2181

p. 112、113	大単元名	4年きょう土の伝統・文化と先人たち	資料	土井 晩翠
【指導に当たって】 「荒城の月」でも知られる詩人「土井晩翠」の業績を取り上げている。土井の業績については、立町小学校土井晩翠校歌資料室（主に校歌を中心に）、仙台文学館、晩翠草堂等で調べることができる。				
写真「土井晩翠」 「荒城の月」や晩翠が作った数々の校歌から晩翠の業績に関心を高める。	土井晩翠が作詞した学校の校歌 全国の学校と海外の日本人学校なども含めると 195 校もの校歌の作詞を手掛けている。	「土井晩翠の年譜」 晩翠に関する「出来事」や「職業」について、年代を追って記載した。少年期や青年期の様子について、本文から読み取る。		
「晩翠の少年時代」 「小さいころからお話を聞いたり本を読んだりするのが大好きな子供だったそうです。字の読めないうちは、和歌や俳句に親しんでいた父親や祖母に昔話をよくねだっていました。 小学校に通うようになると、中国の歴史物語を夢中で読んでいました。「その熱心さには、担任の先生も感心するほどだった。」と伝えられている。	写真「土井晩翠校歌資料室」 立町小学校の中に晩翠が残した、たくさんの資料が展示されている。 立町小／青葉区立町 8-1		情報コーナー「仙台文学館」 晩翠については仙台文学館の常設展示で紹介している。また、館内見学の際の展示解説や、学校への出前授業も受け付けている。 仙台文学館 住所/青葉区北根 2-7-1 TEL/022-271-3020	「市民合唱」 「荒城の月」が発表されてから 120 年目を記念して、「荒城の月 市民大合唱」の動画が公開された。（企画制作：仙台市、仙台文学館）動画は下記のサイトで視聴することができる。 せんだい tube【仙台市公式動画チャンネル】 >2ch せんだいの魅力>せんだいの魅力単独動画 >うちでうたおう 杜の都にひびけ「荒城の月 市民大合唱」 http://www.youtube.com/watch?v=A5kyJCNWQUg

折込 ページ	大単元名	4 年 わたしたちの県	小単元名	県の広がり
		5 年 わたしたちの国土		世界の中の国土
【指導に当たって】				
仙台市の国際姉妹・友好都市について取り上げている。宮城県と他地域、外国との結びつきについて調べる学習の資料として活用することができる。				
世界地図・説明				写真
各国際姉妹・友好都市の場所と挨拶を紹介し、様々な国の言葉に触れさせたい。				各都市の様子を知る手掛かりとして、各国際姉妹・友好都市の特徴的な建物や祭りの様子、町並みなどを紹介しており、地図帳を使って、国や都市の位置を確かめることができる。
説明		仙台市の国内姉妹都市		
各国際姉妹・友好都市名と、締結年が紹介されている。それぞれの都市との提携動機等の詳細については、仙台市のホームページを参照することができる。他に、交流促進協定締結都市・台南市(台湾)、産業振興に関する協定締結都市・オウル市(フィンランド共和国)がある。		音楽姉妹都市：竹田市（大分県）、 中野市（長野県） 観光姉妹都市：徳島市（徳島県） 歴史姉妹都市：宇和島市（愛媛県）、 白老町（北海道）		
<国際姉妹・友好都市> ○ リバサイド市(アメリカ合衆国) ～風光明媚な南カリフォルニアの中心にあるリバサイド郡の郡都で、郡の西部に位置し、ロサンゼルスから車で一時間程度のところにある。かつて柑橘産業が盛んだったため、その時代の遺産が随所に見られる歴史の街。現在は小売業とエンターテイメント産業において継続的に発展しており、南カリフォルニア第三の郊外小売業中心都市である。また、教育水準も高く、数多くの研究機関が集積している。人口約 32 万人。 ○ レンヌ市(フランス共和国) ～ブルターニュ州の州都であり、政治・経済・文化の中心地。中世以来の伝統的な建築と近代的な建築とが調和した落ち着いたまち。多くの高等教育機関や研究機関があり、ブルターニュの学術研究の中心的役割を果たしている。また、農林漁業の中心地で畜産、酪農等が盛んであり、バイオ・テクノロジーを利用した食品加工業も盛んになってきている。通信光学関係の研究も盛んで産・学・官共同のプロジェクトであるレンヌ・アタラントを中心に日本企業の進出も進んでいる。人口約 22 万人。 ○ ミンスク市(ベラルーシ共和国) ～古くからの歴史と伝統を持つ都市で現在ベラルーシ共和国の首都。姉妹都市提携当時は、旧ソ連邦の白ロシア共和国だったが、1991 年に独立し、国名をベラルーシ共和国と改め、現在にいたっている。第 2 次世界大戦による戦災で古い街並みは失われたが、戦後著しい復興を遂げ、自動車やトラクターなどの生産が盛んな工業都市として生まれ変わった。また、ベラルーシ国立大学をはじめとする大学や研究機関、オペラ、バレエ劇場や博物館、美術館などの文化施設が数多く立地する学術・文化都市でもある。人口約 202 万人。 ○ アカプルコ市(メキシコ合衆国) ～メキシコ合衆国太平洋岸グレーロ州最大の都市。首都メキシコシティから約 400km の地点に位置し、太平洋岸でも最も古く、また、美しい港のひとつであるアカプルコ港を有する。美しい砂浜と変化に富んだ海岸線で知られる国際的な観光保養都市であり、主な産業は観光業である。1614 年（慶長 19 年）の慶長遣欧使節支倉常長アカプルコ上陸を縁として、姉妹都市提携がなされた。人口約 78 万人。 ○ 長春市(中華人民共和国) ～吉林省の省都で、肥沃な土壌をベースに農業が発達しており、「東北食糧庫」と称されている。工業では「長春第一自動車グループ」等を中心とする交通運輸設備製造業が主体であるほか、電子・光学・食品・軽紡化学・建材等の産業が発達しており、また映画産業も盛んである。また、吉林大学など 40 以上の大学をはじめ、数多くの高等教育機関や研究所があり、教育の中心地でもある。総人口約 907 万人。 ○ ダラス市(アメリカ合衆国) ～商業、流通、金融、製造業が盛んなアメリカ合衆国中南部の拠点都市。全米最大規模のダラス・フォートワース国際空港や世界最大の卸売展示場であるダラス・マーケットセンターなどの施設があり、全米有数のコンベンション都市である。プロスポーツの盛んな都市としても有名で、アメリカンフットボール、バスケットボール、野球、サッカー、アイスホッケーなどのプロチームが本拠地としている。人口約 135 万人。 ○ 光州広域市(大韓民国) ～首都ソウルから南へ約 330km、飛行機で約 40 分のところに位置する大韓民国南西部の政治・経済・文化・教育の中心地。韓国南西地域を代表する芸術の都と言われ、パンソリ（物語を歌唱化した民族芸能）の発祥地であり、墨の香りが漂う南宗画（韓国画）もさかんである。また、1995 年（平成 7 年）から世界美術博覧会「光州ビエンナーレ」を創設し、韓国の文化芸術を世界に広めることを目指している。他にも、先端産業団地の整備や科学技術院の設置などを行い、先端技術産業の育成・誘致にも力を注いでいる。人口約 145 万人。 ～仙台市ホームページより				